公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成28年5月1日発行（毎月1回1日発行）通巻559号

ハンドボール

MAY. 2016 No.559

特集
2016リオデジャネイロオリンピック IHF世界最終予選（女子）
第40回 日本ハンドボールリーグプレーオフ
第39回 全国高等学校選抜大会

［表紙写真］2016リオデジャネイロオリンピックIHF世界最終予選（女子）の日本代表選手

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.or.jp/

英国のエアライン格付機関SKYTRAX社が主宰するエアライン・スターランキングで
4年連続、世界最高評価「5STAR」を獲得。ANAは日本で唯一の5スターエアラインです。

ハンドボールを未来へ継承する

公益財団法人 日本ハンドボール協会 指導委員長　**藤本　元**

選手として、または観客として、息の詰まる様なゲーム展開に胸を躍らせ、思いを紡ぎながら迎えた最後の結末に心の震えるような感動を味わったことがある方はたくさんいらっしゃるのではないかと思います。「スピーディーなゲーム展開」、「空間をフルに使ったダイナミックなプレー」、「身体を張ってのしのぎ合い」、「随所に現れる緊迫したシューターとキーパーとの対決」、そんなハンドボールの魅力を次世代に継承していく事が我々指導者にとって一番重要なミッションです。

しかし、日々進歩しているハンドボールを、発育発達段階、競技能力の熟達度、チーム構成員の個性などを勘案し、適確に、そして適切に指導するということは簡単ではありません。指導者に『学び』は必要不可欠です。指導委員会は、全ての指導者に学ぶ機会を保証するために、指導者の研鑽システムおよび研修内容の整備と充実を図って行きます。

指導委員会では、2013～2015年度の間に、中央講習会として、日本体育協会公認上級コーチ／コーチ講習会を３回、トップコーチセミナー／コーチセミナーを７回、コーチレフェリーシンポジウムを３回開催しました。この間に、海外からのべ５人の指導者をお迎えし、世界のトレンドを踏まえながら高いレベルでのコーチングを行うための研修を行ってきました。今後は、ブロックおよび都道府県における指導者講習会の開催を促進していきます。そのために、指導委員会組織強化と指導者人材バンク設置を行います。

組織強化の第一歩として、今まであいまいであったブロックおよび都道府県の指導委員長の役割と仕事内容を明確にし、その人選を各協会に再度お願いしています。各ブロックおよび都道府県の指導委員長がその地域での指導者養成事業のコーディネーターとなります。また、「指導者人材バンク」を設置し、各ブロックおよび都道府県協会から依頼があれば、指導委員会が講習会のための講師をご紹介いたします。

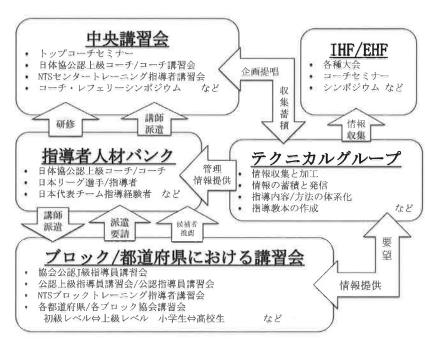



図　指導者が学び、研鑽し続けることができる指導者養成システム
（CTS: Coach Training System）

さらに、指導者の研修内容の整備と充実のために、指導委員会内に「テクニカルグループ」を設置、各種講習会でもたらされる情報を映像や冊子として蓄積しています。競技者育成技術委員会のテクニカルチームで作成したオリンピック予選のテクニカルレポートの作成にも関わっています。こうした情報を蓄積しながら、２年後の指導教本の改訂を目指しています。なお、指導者のみなさまがより簡単に情報を取得できるように、指導・育成・普及委員会のホームページを開設しました。

指導委員会では、全国の指導者のみなさんにこうした事業を活用していただき、ご意見やご批判も頂戴しながら、ハンドボールの魅力を次世代に継承する指導者が常に学ぶ機会を保障されるようなシステムを構築したいと思っています。そして、指導者自身が人を指導することにより成長し、自分の人生をさらに味わいのある豊かなものとして欲しい、その様な世の中が実現されることを指導委員会は願っています。

2016リオデジャネイロオリンピック
IHF世界最終予選（女子）

大会期間：2016年3月18日㈮～20日㈰
開催地：フランス（メッス）、デンマーク（オーフス）、ロシア（アストラハン）

最終順位

〈トーナメント1〉 1位：オランダ　2位：フランス　3位：日本　4位：チュニジア
〈トーナメント2〉 1位：ルーマニア　2位：モンテネグロ　3位：デンマーク　4位：ウルグアイ
〈トーナメント3〉 1位：ロシア　2位：スウェーデン　3位：ポーランド　4位：メキシコ

選手団名簿

役職	名前	所属
団長	西窪勝広	（公財）日本ハンドボール協会
強化本部長	田口隆	（公財）日本ハンドボール協会
監督	栗山雅倫	（公財）日本ハンドボール協会 東海大学
コーチ	北林健治	（公財）日本ハンドボール協会 都城工業高等高校
コーチ	小松真理子	（公財）日本ハンドボール協会 北國銀行
ストレングスコーチ /トレーナー	高野内俊也	（公財）日本ハンドボール協会 （一財）日本予防医学協会
ドクター	永澤雷太	（公財）日本ハンドボール協会 ながさわ整形外科
トレーナー	岩谷美菜子	（公財）日本ハンドボール協会 ながい接骨院
情報分析	小笠原一生	（公財）日本ハンドボール協会 大阪大学
情報分析	嘉数陽介	（公財）日本ハンドボール協会 東海大学大学院
総務／広報	長谷川千紗	（公財）日本ハンドボール協会 青山学院初等部

背番号	名前	所属	国際 試合数	国際試 合得点
1	飛田季実子	ソニーセミコンダクタ	104	0
6	石野実加子	北國銀行	31	36
9	横嶋かおる	北國銀行	59	140
10	藤井紫緒	宣真高等学校（教員）	117	587
14	横嶋彩	北國銀行	16	33
16	白石さと	オムロン	11	0
17	東濱裕子	オムロン	136	345
18	田邉夕貴	Fehérvár KC (HUN)	37	102
19	池原綾香	三重バイオレットアイリス	15	22
20	石立真悠子	Fehérvár KC (HUN)	73	158
21	相澤莉乃	オムロン	10	31
24	原希美	三重バイオレットアイリス	41	108
26	川村杏奈	ソニーセミコンダクタ	20	24
27	塩田沙代	北國銀行	19	13
28	永田しおり	オムロン	61	39
29	松村杏里	広島メイプルレッズ	21	93
30	亀谷さくら	VIPERSKristiansand (NOR)	10	0

リオデジャネイロオリンピック世界最終予選を終えて

監督　栗山 雅倫

世界最終予選が終わり、4年に及ぶリオデジャネイロオリンピックへのチャレンジが終了いたしました。チームをお預かりした監督として、皆様方のご期待にそうことができず、ただただ無念です。心よりお詫び申し上げます。この4年間､本当にたくさんの方々からの激励叱咤を頂き、かくも高い関心の中で活動できましたことは、チーム一同本当にありがたく感じておりました。あらためまして御礼申し上げます。有難うございました。

大会は、2016年3月18日から20日にかけて、フランス・メッスの地にて開催されました。参加国は世界選手権シルバーメダリストのオランダ、地元フランス、アフリカのチュニジアと日本の4カ国であり、グループに2枚与えられたリオへのチケットを巡って、死闘が展開されました。

初戦の相手はアフリカ屈指の強豪チュニジア、前回世界選手権では勝利を収めたものの、ヨーロッパで活躍する選手を多く擁するチュニジアは、決して侮ることのできない対戦相手でした。切符獲得に向けて、まずは乗り越えなければならない壁というプレッシャーもあり、綿密な準備の元に試合を迎えました。結果、終始高い集中力を発揮し、これまでにない大差での勝利で試合を終えることができました。

二戦目の相手は、初戦フランスとの対戦でも盤石の勝利を収め、事前の評価通り、世界屈指の実力を示したオランダとの対戦。前半は周囲の予想を大きく裏切り、互角の展開。後半はオランダの勢いを止めることができず、善戦虚しく一敗目を喫しました。しかしこの戦いで、フランスをはじめとする欧州のメディアを通した評価は、おりひめジャパンの力をあらためて高く扱うこととなり、選手も相応の自信を深める戦いとなりました。

最終戦、お互いにターゲットとしたラストチケットをかけてのフランスとの対戦。この日も前半は十分な粘りを見せ、互角の展開、後半、“今季最高の出来”とも自らを評したフランスチームに押し切られ、敗戦を喫し、この時点でリオへの道は閉ざされました。

選手はこの4年間、あらゆる苦難に耐え、本当によく健闘しました。この頑張りを一言で表現することはあまりにも困難です。日本最高のプレーヤー達が、今持ちうる最高のパフォーマンスを発揮し、最後の戦いをやりきったことは、無念な結果のうちにも、今後への光明へつながったものと確信しています。世界を相手に、対戦国のすべてが日本を警戒するようになりました。戦える土壌は作られました。後半のエアーポケットとなる時間帯へのアプローチも、少しずつ改善が見られてきました。3年後に迎える熊本世界選手権、4年後に迎える東京オリンピックにて、躍動する日本チームの姿を、心より強く強く願い続けます。

世界最終予選を戦って

おりひめジャパンキャプテン　石野 実加子

世界最終予選が終わり、私たちの挑戦が終わりました。皆様方のご期待に添えず残念です。また、このチャレンジを通して、本当に多くの方々からエールを頂きました。日々の活動の中では辛く苦しいこともあり、皆様方からの温かい後押しがなければ、決して乗り越えられることはなかったと思います。本当に有難うございました。

今回の大会は、リオオリンピックへの最後の挑戦の機会であり、各国の入れ込みようは、過去に見ないほどのものを感じました。私たちおりひめジャパンもまた、それらに負けない覚悟で臨みました。終わってみれば出場権獲得には至らず、悔しい気持ちでいっぱいです。これまで取り組んできたことを洗練させ、最後まで諦めることなくチャレンジし続けました。それでも世界のトップチームの力は私たちを凌ぐものがあり、勝ちきることはできませんでした。

これまでの挑戦の中に、日本の強みは機動性にあることを確信しました。そしてそれを信じ、私たちは精一杯戦ってきました。結果としてはリオオリンピックの出場を逃してしまいましたが、すべての思いをぶつけ、ハンドボール人生をかけた戦いができたことは誇りとなりました。今後もその誇りを胸に、しっかり戦い続けたいと思います。

戦 評

3月18日（金）

日本　37（19－8, 18－12）20　チュニジア

リオ・デジャネイロオリンピック世界最終予選の初戦は、アフリカ屈指の強豪国であるチュニジアとの対戦。出場権獲得に向けて、負けられない戦いとなった。先取点は藤井、リバウンドをねじ込み、チームを勢いづける。出だし、日本は積極的なDFが良く機能しペースを掴む。攻めては速攻、セットともに安定し、開始15分で12対1と大きなリードを奪うことに成功。石立から横嶋（彩）へのアクセントあるゲームメークの変化が、相手防御の混乱を誘導し、前半終了時には19対8とする。

後半にはいっても、機動的な展開を損なうこと無く、全員がコートに立ち、優位な展開を継続する。一方のチュニジアも抜群の運動能力を活かし、ロングシュート、強引なポストでペースを掴みかける。しかし日本チームも慌てることなく対処し、後半の中盤、再び突き放すことに成功。終始優位を保った日本は、37対20で勝利をおさめた。経験組の活躍もさることながら、若手の躍進が目立った試合であった。横嶋（彩）を筆頭に、相澤、原、池原、松村、川村も得点に絡み、今後の飛躍におおいに期待したい。この日の最優秀選手は8得点の活躍を示した藤井。エースの力強い活躍は、チームに勢いを与えた。

［個人得点］ 藤井：8点、横嶋彩：5点、池原・松村：4点、田邉・原・川村：3点、相澤：2点、石野・横嶋か・石立・塩田・永田：1点

3月19日（土）

日本　25（16－15, 9－18）33　オランダ

リオ・デジャネイロオリンピック世界最終予選、第二戦の相手は世界選手権銀メダルのオランダ。世界屈指の高さとパワーを誇るチームとの対戦は、両チームの激しい攻防で幕を開けた。日本チームは得意の機動力を活かし、序盤、効果的に7mT獲得する。対するオランダも、高さと強さを十二分に活かした攻撃で対抗、ハイテンポな試合展開となった。フランスを17点に抑えるなど、GKを中心とした防御力にも高い評価を得るオランダは、堅守速攻で主導権を掴みにかかり、中盤リードを奪うものの、日本も石立、藤井、横嶋（彩）を中心に攻撃のリズムを崩さず、飛田も再三の好セーブを見せ、前半16対15と1点差のリードで折り返した。

大方の予想と大きく異なる展開に、会場は異様なムードに包まれ、後半のスタートを迎えた。出だしから猛攻を繰り返すオランダに対し、日本も必死の攻防を繰り返すが、オランダの司令塔グルート、絶対的なシューターのポールマンらの猛攻は止まらず、後半の中盤以降、じりじりと引き離される。それでも一時は停滞したセット攻撃が再び機能し始め、なんとか食い下がりながら残り7分を迎える。随所に強さを示した日本も、終盤オランダに押し切られ、25対33で終了。

リオへの出場権獲得は、最後のフランス戦にかけることとなった。アジア地区予選以降の難しい状況の中、チームは必死に立ち上がりステップアップを示してきた。世界最終予選の最終日、リオへの最後の一枚となった切符を是が非でも掴みたい。

［個人得点］ 横嶋彩：7点、藤井：6点、石立：4点、松村：3点、池原：2点、横嶋か・原・永田：1点

3月20日（日）

日本　17（7－11, 10－14）25　フランス

リオ・デジャネイロオリンピック、最後の一枚の切符をめぐるフランスとの決戦。メッスの会場がフランスの大応援団で埋め尽くされる中、序盤から激しい攻防が展開された。日本代表は機動力溢れる攻防で8分までに3対2とリードするものの、フランスは絶対的なエース、ピノーを中心としたフィジカルをフルに活かした攻防を中心に激しく応戦、20分を過ぎたところで3対8とリードを奪われる。その後、松村、横嶋彩の活躍で7対8としぶとく粘る日本代表だが、前半終了時には7対11と4点のビハインドで折り返す。

後半スタート、藤井の豪快なプレーで11対13としつこく食らいつく。一方のフランスはここから得意の防御から速攻で突き放すことに成功し、17対25で試合終了。

世界トップの実力チームの一角を崩すことができず、リオへの挑戦はここで潰えたが、日本の今後の可能性を印象付ける一戦となった。選手の健闘を讃えたい。

［個人得点］ 藤井：5点、松村：4点、横嶋彩・池原：3点、石立・原：1点

帯同報告　女子日本代表トレーナー　高野内 俊也

【リオデジャネイロオリンピック最終予選について】

2016年3月18日～20日までフランス・メッスで行われた世界最終予選に帯同させていただきましたのでご報告いたします。

2月29日から国内合宿を実施し、約1週間は選手の身体状況を考慮しながら世界で戦うための身体作りを短期間ながら行いました。3月7日からは時差調整も含めたハンガリー遠征を行い、現地クラブチームとの戦いを繰り返しながら、最終予選に向けたコンデイションづくりを行いました。

結果は既報のとおり、オリンピックの切符を獲得することができませんでした。これまで選手、チームが積み重ねてきたもの、そしてご支援、ご声援をいただいた多くの皆様の力をオリンピック出場に結び付けることができず、スタッフの一員として大変申し訳なく思います。

【おりひめジャパンのトレーナーとしての役割】

先のヒロシマ国際大会のご報告でも記載いたしましたが、私の女子代表での役割は、栗山監督就任当初より「身体に関することを任せる」と一任いただき、コンデイショニング、傷害管理、トレーニング、栄養などに関しての環境を整え、機能を向上させることにありました。

監督の定める戦い方の指針に沿って、体格の不利を戦略上不利とせず、優位な機能として戦い抜くために「低さを武器とする」こと、そして「1試合、1大会を通して高い機動性を維持する」こと、「コンタクトフィットネスの向上」をフィジカルの目的として、日々トレーニングを積んできました。

また、栄養の面からも、味の素様の多大なるご支援をいただき、強化合宿時のレクチャー、食事管理、身体組成記録、サプリメント補助などを通して、多くの選手が体重と筋量のアップを達成することができました。

【取組みによる成果と課題】

この世界最終予選においても、オランダ、フランス、チュニジアとの体格差はありましたが、攻撃面及び防御面において、「機動性」「低さ」「コンタクト」でトレーニング成果を発揮してくれたと感じています。

結果として切符を取れなかったことは大きな反省となりますが、さらなる課題の整理と取組みをトレーナー組織全体としても認識する必要があると感じています。

トレーナーの立場から今後の課題として言えることは、世界と対等に戦うための一因として、コンタクトはフィジカル要素を超えてテクニックであり、スキルであると認識してトレーニングサポートに取り組む必要がある、ということです。コンタクトをされながらでも乱れないパス、シュートを振りぬく力。相手の攻撃を寸断する鋭く強いコンタクト、そして自らはダメージを受けずに相手にダメージを与えるコンタクトスキルなど。体格ではなく、コンタクトを恐れず、利用することにつながるトレーニングを検討していくことがひとつの課題と考えています。そのベースには、総合的なフィジカルレベルの向上も欠かせない要素と思われます。

また、女子代表チームでは、練習試合中の走行距離と心拍を何度か記録していました。女子代表で一番走行距離が長かった選手は、攻守双方を50分間続けた際に約9㎞の走行距離を記録しました。60分継続した場合は10㎞を超える距離になったと思われます。試合の展開や選手交代などにもよると思いますが、この数値は機動力を活かすためのおりひめジャパンに必要な体力要素のひとつとして示唆されました。

今後、これらの身体要素については、強化、情報、医事、トレーナーが一体となり、情報共有をしながら強化指標として検討、提示できればと考えています。

【最後に】

日本代表は結果がすべてと言われています。結果を出すことは残念ながら叶いませんでしたが、日本のハンドボールに必要と召集され、多くの時間をトレーニングに費やし、日々努力を重ねて世界に戦いを挑み続けた女子代表の選手のみなさんを、私は心より尊敬いたします。

私の4年間のトレーナー活動がチームのためになったかどうかは、スタッフや選手のみなさんが評価することですが、今後の強化活動に少しでもつながることがあればと筆を取らせていただきました。

文末ではありますが、女子代表チームを応援してくださった皆さま、活動をご支援いただいた関係者の皆さま、日本協会のみなさま、女子代表に惜しみなく力を貸して頂いた高校生、大学生のみなさま、本当にありがとうございました。心より御礼申しあげます。

2016リオデジャネイロオリンピック出場12カ国決まる（女子）

1　ブラジル…開催国

2　スペイン…ヨーロッパ大陸予選2位

※ヨーロッパ大陸予選1位のノルウェーが2015世界選手権優勝国のため繰り上がり
【ヨーロッパ大陸予選結果】1.Norway　2.Spain　3.Sweden　4.Montenegro　5.France　6.Hungary　7.Netherlands　8.Denmark　9.Romania　10.Germany　11.Poland　12.Slovakia　13.Croatia　14.Russia　15.Serbia　16.Ukraine

3　アンゴラ…アフリカ大陸予選1位

【アフリカ大陸予選結果】1. Angola　2. Tunisia　3. Senegal　4. Congo

4　アルゼンチン…パンアメリカ大陸予選2位

※パンアメリカ予選1位のブラジルが開催国のため繰り上がり
【パンアメリカ予選結果】1. Brazil　2. Argentina　3. Uruguay　4. Mexico　5. Cuba　6. Puerto Rico　7. Canada　8. Chile

5　韓国…アジア大陸予選1位

【アジア大陸予選結果】優勝：韓国　2位：日本　3位：中国　4位：カザフスタン　5位：ウズベキスタン

6　ノルウェー…世界選手権1位

【世界選手権結果】優勝：ノルウェー　2位：オランダ　3位：ルーマニア　4位：ポーランド　5位：ロシア　6位：デンマーク　7位：フランス　8位：モンテネグロ　9位：スウェーデン　10位：ブラジル　11位：ハンガリー　12位：スペイン　13位：ドイツ　14位：韓国　15位：セルビア　16位：アンゴラ　17位：中国　18位：アルゼンチン　19位：日本　20位：プエルトリコ　21位：チュニジア　22位：カザフスタン　23位：キューバ　24位：コンゴ民主共和国

7　オランダ…IHF最終予選トーナメント1　1位

8　フランス…IHF最終予選トーナメント1　2位

【IHF最終予選トーナメント1結果】1位：オランダ　2位：フランス　3位：日本　4位：チュニジア

9　ルーマニア…IHF最終予選トーナメント2　1位

10　モンテネグロ…IHF最終予選トーナメント2　2位

【IHF最終予選トーナメント2結果】1位：ルーマニア　2位：モンテネグロ　3位：デンマーク　4位：ウルグアイ

11　ロシア…IHF最終予選トーナメント3　1位

12　スウェーデン…IHF最終予選トーナメント3　2位

【IHF最終予選トーナメント3結果】1位：ロシア　2位：スウェーデン　3位：ポーランド　4位：メキシコ

オリンピックにおける女子ハンドボールの結果

回数	開催年	開催地	参加国	優勝	2位	3位	日本
1	1976	モントリオール	6	ソ連	西ドイツ	ハンガリー	5位
2	1980	モスクワ	6	ソ連	ユーゴスラビア	西ドイツ	不出場
3	1984	ロサンジェルス	6	ユーゴスラビア	韓国	中国	不出場
4	1988	ソウル	8	韓国	ノルウェー	ソ連	不出場
5	1992	バルセロナ	12	韓国	ノルウェー	統一ドイツ	不出場
6	1996	アトランタ	12	デンマーク	韓国	ハンガリー	不出場
7	2000	シドニー	12	デンマーク	ハンガリー	ノルウェー	不出場
8	2004	アテネ	12	デンマーク	韓国	ウクライナ	不出場
9	2008	北京	12	ノルウェー	ロシア	韓国	不出場
10	2012	ロンドン	12	ノルウェー	モンテネグロ	スペイン	不出場
11	2016	リオデジャネイロ	12				不出場
12	2020	東京	12				

ANA CUP 第40回 日本ハンドボールリーグ プレーオフ

2016/3/26(土)～3/27(日) 東京・駒沢体育館

男子：大崎電気が５年ぶり３回目の優勝！

女子：北國銀行が２年連続の優勝！

第 40 回日本ハンドボールリーグを終えて

日本ハンドボールリーグ機構GM　家永 昌樹

女子・北國銀行、男子・大崎電気の優勝で、今シーズンの全ての日程を終了いたしました。今シーズンはオリンピック予選に伴い、リーグ戦の日程が変則になり、女子は 2 回戦総当たりとなりました。日程変更に際し、ファンの皆様、開催地の皆様、チームの皆様はじめ、関係各位には多大なるご迷惑とご負担をお掛けいたしましたことお詫び申し上げます。また、皆様のご理解、ご協力のもと無事に終了することができたことに深く御礼を申し上げます。

今シーズンも 7 月に開催地責任者の皆様と集客や会場作りのレギュレーションの統一を図るために研修会を行いました。昨年度より運用している会場設営マニュアルにも改良を加え、会場設営の統一化を目指して進めてきました。

また、集客に関しては、1,000 人超えの会場が増えていますが、日程変更の影響で 300 人台の会場もありました。引き続き集客対策には開催地、リーグが一体となって取り組んで参ります。

シーズン開始前にはレフェリーと監督が合同研修会を行い、活発な意見交換を行い、国際連盟から送られた DVD をもとに判定の統一化とチームサイドの相互理解を深めました。

レギュラーシーズンは、男子が大崎電気、女子は北國銀行が全勝で終えました。男女とも上位チームの力は接近していますが、下位チームとの差が開いているのが実状です。また、日本代表選手の多くが日本リーグチームに所属していることから、選手のさらなる育成が急務だと実感しています。日本リーグチームの底上げを行うことで、代表チームの底上げに繋がると考えています。選手だけではなく所属チーム監督のレベルアップも急務であり、今期よりリーグ内でも強化を進めて行く考えで、監督研修会を 4 回に亘り開催し、よりレベルの高い監督、選手の育成を行っていきます。日本リーグのレベルアップなくしては、代表チームのレベルアップはないと強く信じて、ハンドボール界が一体となり強化に取り組んで参ります。

プレーオフでは、女子は 1 位通過した北國銀行が優勝しましたが、決勝戦では立ち上がりから安定した試合運びで、終始落ち着いた展開で 2 年連続 3 度目の優勝を飾りました。

男子は、レギュラーシーズン 1 位の大崎電気が勝ち上がり、トヨタ車体との決勝では、序盤から両 GK のファインセーブで決勝に相応しい展開でファンを魅了いたしました。

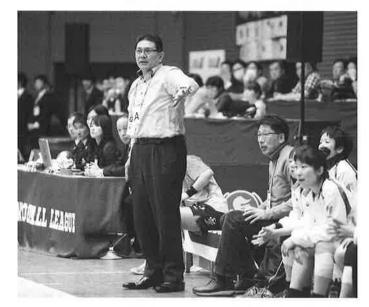
今回のプレーオフでは、最後の 1 枠をかけてレギュラーシーズン終盤の戦いが激しさを増し、トヨタ自動車東日本が創部 4 年目して初出場を果たしました。新しいチームがプレーオフに進出したことは、リーグ全体、ハンドボール界全体にも大きな意味があると思います。

今シーズンは日本リーグ 40 周年を迎え、インターネット中継をトライアルで取り組み、多くのファンの皆さまに楽しんで頂きました。また、40 周年アンバサダーとして NGT48・北原里英さんに就任いただき、会場を盛り上げていただきました。

2020 年東京オリンピック以降、また 50 周年を見据えたビジョンを描き、展開していきます。もっと強くして、もっと楽しくして、もっと役に立つ日本リーグを目指していきます。

引き続きのご支援、ご声援を賜りますように宜しくお願い申し上げます。

男子優勝 大崎電気

女子優勝 北國銀行

戦評：男子

▼準決勝

大崎電気　19（10 － 11、9 － 7）18　大同特殊鋼

第30回から10年間プレーオフ負け無しの大同。その大同に幾度となく優勝を阻まれ続けてきた大崎。この因縁の両チームが準決勝で戦うことになった。開始早々、大同・藤江が2連取。大崎もすぐさま取り返し前半10分2対2。その後も一進一退の攻防が続き26分、8対8同点。26分40秒、大同藤江のカットインにより、大崎・森が退場となる。このままリードを広げたい大同だったが、大崎も食らいつき11対10大同リードで折り返した。

後半立ち上がり、大崎が信太のカットインで同点とすると、前半同様息詰まる一進一退の攻防が続いた。9分20秒、大崎・石川が退場し、流れが傾くかと思われたが、大崎・宮崎の華麗なサイドシュートやGK木村の好セーブで凌いだ。逆に大同・野村と千々波が退場するが、今度は大同が凌ぐ。27分大崎・宮崎のミドルシュートで19対18とすると、29分52秒に大崎・小室が退場となるも、最後は大崎が必死のディフェンスで試合終了。激闘を制した。

トヨタ車体 35（16 － 13、19 － 13）26 トヨタ自動車東日本

念願のプレーオフ優勝を目指す車体とプレーオフ初出場となる東日本。リーグ戦では、東日本が車体を下しているので注目の1戦だ。車体の2連取から始まったが、東日本も相手のミスと退場から着実に得点を重ね、6対3と逆転する。しかし、ここから車体の多彩な攻撃にあい、逆転を許してしまう。12対8と車体リードでむかえた22分、車体・高智が退場する。東日本・玉井が落ち着いてペナルティを決めるも車体の猛攻は止まらない。東日本も離されまいと食らいつき16対13と3点ビハインドで折り返す。

後半スタートから、車体は津屋、渡部の連取により、20対14と6点差と広げる。東日本GK関口に好セーブが出始めると、攻撃のリズムも良くなり、6分には車体・渡部が退場となる。東日本は少しでも詰めたい所だが活かす事が出来ず、11分22秒に東日本はタイムアウトを要求。ディフェンスシステムをダブルマンツーに切り替え2連取する。しかし反撃もここまで。隙を見せることなく試合を運んだ車体が35対26で決勝へコマを進めた。

▼決勝

大崎電気　25（11 － 12、14 － 12）24　トヨタ車体

悲願の王座奪還に燃える大崎。念願の初優勝に王手をかけた車体。男子決勝は、誰もが待ち望んだ対決となった。前半序盤、一進一退の攻防が続く中、9分車体が渡部、藤本両サイドの得点により6対4とリードを広げる。しかし、16分30秒大崎・宮崎のランニングシュートなどで連続得点し、8対8の同点。このまま一歩も譲らない展開が続き、前半終了間際に石戸の速攻で12対11と車体が1点リードして折り返す。

後半、まず車体が流れを掴み、津屋の2連取で3点差とする。その後、車体・高智が退場すると流れが一変する。さらに車体が退場者を出す間に、大崎が8連取に成功し、21対16とリードする。このまま大崎ペースかと思われたが、車体は門山の2連取などで1点差に追いつく。29分に車体がタイアウトを要求し、その後7mTを決め、25対24の1点差にするも無情にもタイムアップ。大崎が5年ぶり3度目の優勝を果たした。

戦評：女子

▼準決勝

北國銀行 30（16－10、14－5）15 広島メイプルレッズ

プレーオフ2連覇を狙う北國と、前年王者に勝って決勝へ駒を進めたいメイプルとの準決勝。前半序盤、メイプル・加須屋のミドルシュートで先制すると、開始4分2対0とリード。しかし、北國も横嶋（彩）、横嶋（か）の連続得点で追いつき逆転。4対2とリードを広げる。この後も北國の速い攻撃に対応出来ず、徐々に点差が広がっていく。メイプルは前半13分10秒タイムアウトを要求し立て直しを計るが、北國の攻撃を抑えることが出来ず、10対16と6点差になり前半を折り返す。

後半、お互い得点を許さず開始5分間硬直状態が続く。5分10秒、北國・横嶋（彩）のポストシュートを皮切りに怒涛の連打が始まる。メイプルは7分15秒眞継が後半1点目を決めるが、その後が続かず、8分30秒たまらずタイムアウト。しかし北國は、寺田のセーブと足の動いたディフェンスでつけ入る隙をみせない。鰍場のサイドシュート、翁長のカットインなどで差を広げ、19分30秒には、24対12。その後も速い攻撃で30対15でメイプルを下し、前年王者の風格をみせた。

オムロン 25（8－8、17－10）18 ソニーセミコンダクタ

前半、レギュラーシーズン2位と3位である両チームは、王座奪還に燃えるチーム同士の対決。開始早々、ソニーが2連取するが、すぐオムロンも相手のミスからの速攻で取り返す。両チームとも3-2-1ディフェンスで、お互いフローター陣が思うように動けない状況が続く。19分オムロン・澤田の速攻で逆転するが、ソニーもGK飛田の好セーブとオムロン・松尾の退場により点差が広がらない。そのまま8対8とロースコアで前半を折り返す。

後半開始早々、ソニーは諸岡のサイドシュートで先制するが、オムロンは松尾、澤田、小林で5連取、13対9と一気に逆転に成功する。ソニーは藤井のサイドシュートで13対10とするも、またもや連打を浴び16分には、18対12となる。その後、オムロンの運動量と一体感のあるディフェンスに攻め切ることが出来ず、25対18でオムロンがソニーを下し、決勝への切符を手にした。

▼決勝

北國銀行　31（17－9、14－8）17　オムロン

決勝は2連覇を狙う北國と、女王奪還を狙うオムロンのライバル対決となった。まず、北國・塩田のミドルシュートで先制する。しかし、オムロンも勝連のサイドシュートですぐに取り返す。拮抗した展開が続くと思われたが、北國は横嶋（か）、横嶋（彩）姉妹のコンビネーションなどで一気に得点を重ねる。さらにGK寺田の連続好セーブで突き放す。オムロンも松尾のミドルシュートなどで粘るが、前半17対9と北國が8点をリードする。

後半に入っても北國の猛攻は止まらず、横嶋（彩）を中心とした機動力ある攻撃で得点を重ねる。一方オムロンは、北國の2度の退場時に得点が重ねられず、点差は離れる一方。後半16分から北國は6連取し、29対15の14点差とする。オムロンは吉田のロングなどで意地を見せるが、ゲームセット。31対17で北國がオムロンを下し、プレーオフ2連覇を決めた。

■順位表　レギュラーシーズン

男子

順位		大崎	車体	東日本	大同	湧永	琉球	合成	紡織	北電	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1	大崎電気		31 26 ○ ○ 20 25	27 31 ○ ○ 20 19	25 27 ● ○ 28 20	28 28 △ ○ 28 21	33 32 ○ ○ 27 23	36 31 ○ ○ 30 24	35 33 ○ ○ 20 21	37 42 ○ ○ 23 20	16	14	1	1	502	369	133	29
2	トヨタ 車体	20 25 ● ● 31 26		36 22 ○ ● 18 26	22 27 △ ○ 22 21	32 24 ○ ○ 26 21	27 34 ○ ○ 22 29	37 35 ○ ○ 30 27	28 22 ○ ○ 21 19	30 34 ○ ○ 26 20	16	12	1	3	455	385	70	25
3	トヨタ 自動車 東日本	20 19 ● ● 27 31	18 26 ● ○ 36 22		22 26 ○ ● 20 30	29 22 ○ ○ 22 18	27 31 ○ ○ 22 28	24 29 ● ○ 32 13	24 22 ○ ○ 19 14	35 28 ○ ○ 25 8	16	11	0	5	402	367	35	22
4	大同 特殊鋼	28 20 ○ ● 25 27	22 21 △ ● 22 27	20 30 ● ○ 22 26		31 21 ○ ● 26 22	32 29 ○ ○ 26 28	32 21 ● ● 35 24	34 30 ○ ○ 24 20	26 29 ○ ○ 23 17	16	9	1	6	426	394	32	19
5	湧永製薬	28 21 △ ● 28 28	26 21 ● ● 32 24	22 18 ● ● 29 22	26 22 ● ○ 31 21		24 25 ○ ● 21 28	32 27 ○ ○ 25 26	31 24 ○ ○ 21 22	34 31 ○ ○ 18 23	16	8	1	7	412	399	13	17
6	琉球 コラソン	27 23 ● ● 33 32	22 29 ● ● 27 34	22 28 ● ● 27 31	26 28 ● ● 32 29	21 28 ● ○ 24 25		27 38 ○ ○ 25 27	36 30 ○ ○ 29 25	28 29 ○ ○ 27 23	16	7	0	9	442	450	-8	14
7	豊田合成	30 24 ● ● 36 31	30 27 ● ● 37 35	32 13 ○ ● 24 29	35 24 ○ ○ 32 21	25 26 ● ● 32 27	25 27 ● ● 27 38		24 27 ● ● 28 30	31 29 ○ ○ 21 19	16	5	0	11	429	467	-38	10
8	トヨタ 紡織九州	20 21 ● ● 35 33	21 19 ● ● 28 22	19 14 ● ● 24 22	24 20 ● ● 34 30	21 22 ● ● 31 24	29 25 ● ● 36 30	28 30 ○ ○ 24 27		30 24 ○ ○ 19 21	16	4	0	12	367	440	-73	8
9	北陸電力	23 20 ● ● 37 42	26 20 ● ● 30 34	25 8 ● ● 35 28	23 17 ● ● 26 29	18 23 ● ● 34 31	27 23 ● ● 28 29	21 19 ● ● 31 29	19 21 ● ● 30 24		16	0	0	16	333	497	-164	0

※勝敗（○、△、●）の上が得点、下が失点を表す。

女子

順位		北國銀行	オムロン	ソニー	メイプル	高山	三重	名古屋	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1	北國銀行		27 25 ○ ○ 26 17	30 25 ○ ○ 17 19	28 32 ○ ○ 14 13	25 25 ○ ○ 9 11	30 21 ○ ○ 17 15	33 40 ○ ○ 20 16	12	12	0	0	341	194	147	24
2	オムロン	26 17 ● ● 27 25		24 25 ○ ○ 23 20	22 20 ○ ○ 14 18	26 17 ○ ○ 13 14	20 20 ○ ○ 18 16	29 29 ○ ○ 8 12	12	10	0	2	275	208	67	20
3	ソニー セミコンダクタ	17 19 ● ● 30 25	23 20 ● ● 24 25		22 17 ○ ○ 11 16	15 15 △ ● 15 16	22 12 ○ ● 13 14	26 25 ○ ○ 13 14	12	5	1	6	233	216	17	11
4	広島 メイプルレッズ	14 13 ● ● 28 32	14 18 ● ● 22 20	11 16 ● ● 22 17		17 21 ● ○ 19 9	20 20 ○ ○ 17 13	32 39 ○ ○ 18 17	12	5	0	7	235	234	1	10
5	飛騨高山 ブラックブルズ 岐阜	9 11 ● ● 25 25	13 14 ● ● 26 17	15 16 △ ○ 15 15	19 9 ○ ● 17 21		18 14 ● △ 22 14	22 21 ○ ○ 16 17	12	4	2	6	181	230	-49	10
6	三重 バイオレット アイリス	17 15 ● ● 30 21	18 16 ● ● 20 20	13 14 ● ○ 22 12	17 13 ● ● 20 20	22 14 ○ △ 18 14		28 17 ○ ○ 20 16	12	4	1	7	204	233	-29	9
7	HC名古屋	20 16 ● ● 33 40	8 12 ● ● 29 29	13 14 ● ● 26 25	18 17 ● ● 32 39	16 17 ● ● 22 21	20 16 ● ● 28 17		12	0	0	12	187	341	-154	0

※勝敗（○、△、●）の上が得点、下が失点を表す。

■個人表彰

【男子】

〈プレーオフ表彰〉

最高殊勲選手賞　木村昌丈（大崎電気）…初
最優秀監督賞　岩本真典（大崎電気）…2回目
殊勲選手賞　藤本純季（トヨタ車体）…初

〈レギュラーシーズン表彰〉

最優秀選手賞　棚原　良（琉球コラソン）…2回目
ベストセブン賞　志水孝行（湧永製薬）…初
東長濱秀希（大崎電気）…5回目
藤江恭輔（大同特殊鋼）…初
棚原　良（琉球コラソン）2回目
朴　重奎（大同特殊鋼）…初
藤本純季（トヨタ車体）…初
渡部　仁（トヨタ車体）…初
ベストディフェンダー賞　川端勝茂（トヨタ自動車東日本）…初
新人賞　橋本明雄（豊田合成）
得点王　棚原　良（琉球コラソン）145点…2回目
フィールド得点賞　小塩豪紀（豊田合成）116点…初
シュート率賞　橋本明雄（豊田合成）0.736…初
7mスロー得点賞　棚原　良（琉球コラソン）36点…2回目
シュート阻止率賞　甲斐昭人（トヨタ車体）0.444（160／360）…4回目
7mスロー阻止率賞　内田武志（琉球コラソン）0.370（10／27）…2回目
フェアプレー賞　湧永製薬 74点／16試合（4.625点／試合）…10回目

【女子】

〈プレーオフ表彰〉

最高殊勲選手賞　寺田三友紀（北國銀行）…初
最優秀監督賞　荷川取義浩（北國銀行）…3回目
殊勲選手賞　東濱裕子（オムロン）…初

〈レギュラーシーズン表彰〉

最優秀選手賞　横嶋かおる（北國銀行）…初
ベストセブン賞　寺田三友紀（北國銀行）…2回目
角南　唯（北國銀行）…初
横嶋　彩（北國銀行）…2回目
吉田起子（オムロン）…初
横嶋かおる（北國銀行）…4回目
八十島智美（北國銀行）…2回目
池原綾香（三重バイオレットアイリス）…初
ベストディフェンダー賞　塩田沙代（北國銀行）…2回目
新人賞　河嶋英里（三重バイオレットアイリス）
得点王　吉田起子（オムロン）79点…初
フィールド得点賞　吉田起子（オムロン）50点…初
シュート率賞　横嶋かおる（北國銀行）0.906…5回目
7mスロー得点賞　吉田起子（オムロン）29点…初
シュート阻止率賞　飛田季実子（ソニーセミコンダクタ）0.531（102／192）…初
7mスロー阻止率賞　橋本千里（北國銀行）0.429（6／14）…初
フェアプレー賞　北國銀行 38点／12試合（3.167点／試合）…3回目

ジャパネット杯　平成27年度　第39回

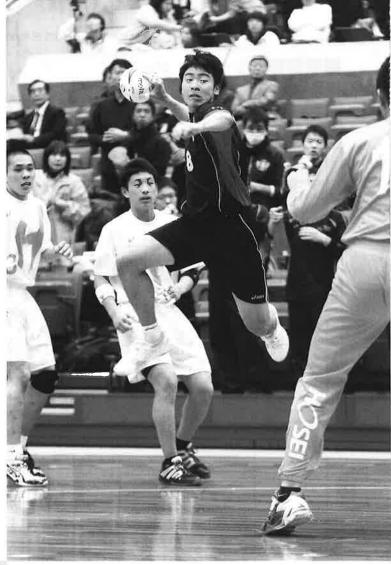
全国高等学校ハンドボール選抜大会

開催期日：平成28年3月24日(木)～29日(火)
会　　場：グリーンアリーナ神戸、神戸市立中央体育館
神戸国際大学附属高等学校体育館、加古川市立総合体育館
高砂市総合体育館

[最終順位]

男子　優　勝：県立岩国工業高等学校（山口県）
準優勝：大分高等学校（大分県）
3　位：大阪体育大学浪商高等学校（大阪府）
法政大学第二高等学校（神奈川県）

女子　優　勝：県立水海道第二高等学校（茨城県）
準優勝：名古屋経済大学市邨高等学校（愛知県）
3　位：県立華陵高等学校（山口県）
高水高等学校（山口県）

第39回全国高等学校ハンドボール選抜大会は全て写真提供：スポーツイベント社

総　評　全国高等学校ハンドボール選抜大会実行委員会 委員長　大崎 俊人

「さぁー」いよいよ待ちに待った全国選抜大会兵庫大会が始まる。緊張と不安と興奮、色々な感情が波を打つかのように押し寄せてきます。このドキドキ感はしばらく味わったことのない感覚に夜も眠れなくなりました。

8年前から誘致し、近畿ブロック開催を待っての開催となり、とにかく、「選手中心」「出場校が持てる力を出し切れる大会」にと前年度開催の愛知県からの全面的な協力を頂きながらの実施となりました。

兵庫県の施設の関係で、最大5会場6面と分散開催になるということで意思統一を図ることを第一にと、指示系統も一本化し、兵庫県ハンドボール協会・兵庫県高体連ハンドボール部の総力を挙げての取り組みとなりました。

また、直前にジャパネットが特別協賛になるという知らせを受け、より一層の緊張を持って、日本協会と協力しながら進めることとなりました。

「会場」「交通手段」「運営」など様々な角度から、いかに選手中心の運営を出来るかと考えましたが、一番は「宿泊」。ホテル、食事については、細心の注意を払いました。昨年からインターハイの運営をしている㈱JTB西日本にお願いをし、また、お弁当に関しては、㈱本家かまどやに依頼しました。

改めて、運営することの大変さ、難しさを痛感いたしました。私自身も指導者として、全国大会には数十回参加させていただきましたが、「感謝」が足りなかったなぁと、数々の無礼を今更ながら反省いたしました。

また、出場チームの皆様から沢山のお土産をいただき、なおさら、力が入ったのを思い出します。

開会式では、入場行進をと力が入りましたが、1時間を越える開会式となり、出場チームに迷惑をかけたかなぁと、来年度以降に改善してより良い開会式にしたいと思いました。

2日目を終えた時点で、「疲れたー」という寝言で起き、翌日の夜には39℃の高熱が出ました。何よりも大きな怪我も無く、大きなトラブルも無く、大会が無事に終了したことにホッとしています。日本協会、全国高体連、愛知県協会・高体連のご協力が助けとなりました。誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

来年は40回記念大会となります。今年の経験を生かし、進化した大会にしたいと思います。

後、2年お付き合いを宜しくお願いいたします。

各関係者の皆様、ご感想、ご意見をいただければ幸いに思います。

最後に年度末の忙しい時期に兵庫県の県内役員を引き受けてくださった顧問の先生方に感謝の意を表したいと思います。

男子優勝 県立岩国工業高等学校（山口県）

県立岩国工業高校主将　栗栖 昇己

今年の第39回全国高等学校ハンドボール選抜大会で私たち岩国工業高等学校は優勝することができました。

今年のチームは昨年や一昨年に比べて、個人の能力は低く、課題の多いチームとしてスタートしました。新チームとして地区大会や県大会、中国大会では一度も負けることなく通過してきました。しかし、どの試合を見ても満足できる内容の試合は一試合もありませんでした。その度に自分たちの試合を話し合い、悪い所は直してできるように、良い所はさらに良くなるように心がけて日々の練習に取り組んできました。ビデオ分析での反省を活かし、できるようになったこともありますが、できないことが多いまま今回の選抜大会へ挑むことになりました。

初戦は、地元の神戸国際大附属高校との試合でした。大会前から倉谷先生に、「この試合はとても大事」とずっと言われていました。中盤でのミスが続き苦しい時間もありましたが勝つことができました。

準々決勝での浦和学院戦では4-2や3-3といったDFで相手のリズムを崩すことはできましたが、セットOFで点が取れず、何とか粘り勝ったという形になりました。セットOFは今後の大きな課題になりました。続く準決勝の法政二高戦では左利きエースの徳田が失格になるというアクシデントがありましたが、チーム全員で徳田の穴を埋め勝つことができました。決勝の大分戦では最初から最後まで自分たちのペースで試合を運ぶことができ、優勝することができました。

大会を通してたくさんの課題を見つけることができ、またチーム力、個人としても成長でき、いい経験を積むことができました。この経験を糧にインターハイに向けてチーム全員で常に上を目指し、岩国工業ハンド部のプライドを持ってがんばりますので、応援よろしくお願いします。

最後になりましたが、日頃からご支援、ご協力、応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。

女子優勝 県立水海道第二高等学校（茨城県）

県立水海道第二高校監督　飯村 裕志

この度は、第39回全国高等学校選抜大会において、おかげ様で初優勝を成し遂げることができました。日頃よりご支援ご協力いただいております学校関係者の皆様、県体育協会、県ハンドボール協会の皆様、県高体連の皆様、保護者の皆様、OGの皆様に深くお礼申し上げます。ありがとうございました。水海道二高の日本一をたどれば、46年ぶりということになります。

9月の水害により地元常総市が甚大な被害に遭い、その中で迎えた和歌山国体では準優勝という成績を収めることができました。しかし私たちは、復興途中である常総市に、元気と活力をという思いで今大会に臨みました。選手達は、試合を重ねるごとに個人もそうですがチームワークも良くなり、決勝戦ではDFで粘り持ち前の走りで勝利することができました。

最後になりましたが、今大会で運営にあたられた大会関係者の皆様、会場で応援してくださった皆様に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

県立水海道第二高校主将　相澤 菜月

はじめに、第39回全国高等学校ハンドボール選抜大会の開催にあたり、多大なるご支援、ご協力を頂きました日本ハンドボール協会、兵庫県ハンドボール協会の方々をはじめ、関係者の方々に心より感謝申し上げます。

私たちは昨年の国体で準優勝という後一歩のところでとても悔しい思いをしました。その思いを叶えるため私たちは、「夢の続き」をテーマにこの大会に挑みました。試合を重ねる度チームの一体感は大きくなり、個々のプレーにも余裕が出るようになりました。

そして決勝、「負けたくない」そんな気持ちがチーム全員を引き締め、良い緊張感と集中力でゲームがスタートしました。自分たちのプレーがうまくいかず7対8で前半を折り返しました。ハーフタイムで持ち味である「守って走って守る」を再確認し後半、2点リードを許してしまう場面もありましたが、スタンドからの大きな声援が力になり、残り10分「とにかく走れ」の指示で一気にギアを上げ、21対16で勝利し、選抜大会初優勝を飾ることができました。

昨年9月10日に発生した鬼怒川決壊による水害を乗り越えて掴み取った日本一でまだまだ復興途中の常総市に明るいニュースを届けられたことがとても嬉しいです。

また夏のインターハイでも優勝できるようこの結果に満足することなく、高みを目指して頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

戦評

男　子

■準決勝

大分　29（14－17､15－11）28　大阪体育大学浪商

準決勝、藤代紫水戦を僅差で制した大阪体育大学浪商（大阪）と､初出場ながら強豪を次々倒した大分（大分）との対戦。浪商のスローオフで始まった。先制したのは浪商、長身の矢野のミドルシュートが決まった（1分8秒）。対する大分は2分54秒川内のシュートで応戦。しかし、浪商は、多彩な攻撃で点差を開いていく。このまま浪商ペースで進むかと思われたが、17分過ぎに大分GKがノーマークシュートを好セーブ、大分攻撃陣に勢いがつき、3ポイント連取、10対10に追いついた。しかし、20分以降、大分に退場者が出たり、パスカットからの逆速攻を許したりで再び浪商ペースとなり、前半は17対14で浪商リードのまま終了した。

後半は、大分・村上のシュートから始まった。互いに相譲らない試合運びとなったが、14分43秒大分のGK片山の好セーブから大分が勢いづき19分3秒には24対24と振り出しに戻し、さらには20分20秒向井のシュートでこの試合初めて大分がリードした。その後、点を取り合ったが、初出場の大分が29対28と僅差で勝利し、決勝へとコマを進めた。準決勝にふさわしい好ゲームとなった。

岩国工業　37（19－16､18－13）29　法政大学第二

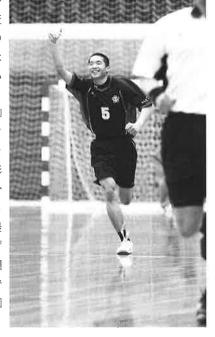
中国ブロック1位の岩国工業と関東ブロック2位の法政二の対戦は、法政二のスローオフで試合開始。前半は来栖のミドルシュートが効果的に決まり、助安のポストシュートも確実に決める岩国工業が終始リードを保つ展開。対する法政二は岩国の堅いディフェンスに苦しみながらも粘り強く攻撃を続け、遠藤のポストシュートなどで大きく離されることなく食らいつき、最大で5点の差がついたこともあったが、結局19対16の3点差で前半を終えた。

後半は藤川にもあたりが出始めた岩国が連続得点し、5分にはリードを6点に広げる。ここで法政二は相手来栖にマンマークをつける作戦に。相手の退場に乗じて連続得点し、2点差にまで詰め寄る。がその後、岩国に3点連取されふたたび岩国ペースに。その後も岩国は清水の連続ミドルシュートなどで確実に加点し、ゲームを優位に進める。法政二も最後まであきらめずに岩国工業ディフェンスに立ち向かうが及ばず、37対29の8点差で岩国工業が勝利し、明日の決勝戦に駒をすすめた。

■決勝

岩国工業　35（19－9､16－11）20　大分

九州ブロック1位の大分、中国ブロック1位の岩国工業と西日本勢どうしの対戦となった決勝戦。大分のスローオフで試合開始。1分、岩国は来栖のミドルで先制、対する大分も3分本田の、カットインと両チームをひっぱる小柄な主将どうしの得点で試合が動き出す。先に流れを掴んだのは岩国、堅い6-0ディフェンスとGKの好セーブからリズムを掴むと6分から藤川のロングや速攻、などで8連続得点、一気に点差を広げた。大分も必死に食い下がるが、岩国は連続得点を許さない。前半は終始岩国ペースで試合が進み、点差は徐々に広がり19対9の10点差で前半を終えた。

後半、大分は5-1ディフェンスに切り替え、反撃の機をうかがう。がしかし、岩国の勢いは変わらず、シュートの精度は落ちることなく確実に加点していった。点差が開き、さらに積極的な防御にでる大分に対しても、岩国は落ち着きを失うことなく多彩な攻撃で加点し大分の追撃を許さなかった。堅固な防御を最大の武器に、終始ゲームを支配した岩国工業が35対20で勝利し、歓喜の全国制覇を成し遂げた。

女　子

■準決勝

名古屋経済大学市邨　26（11－7、15－10）17　華陵

市邨スローオフで試合開始。華陵・吉田のカットインで先制するも、市邨・伊藤のシュートで応戦。市邨の高さを生かした攻撃に対して、華陵の粘り強いDF。華陵の広く展開する攻撃に対して、市邨の高さと足を使ったDF。両チーム決定的なチャンスを作ることができず、我慢の時間帯が続く。市邨は伊藤、左腕の高木のロングシュートで加点。対する華陵も岡﨑のノーステップシュートなどで追いすがるが、市邨GK神谷の再三の好セーブで試合の流れは市邨に傾きかけて前半終了。

後半立ち上がりも我慢の時間帯が続くが、先に流れを掴んだのは華陵。上尾のスピードを生かした速攻などで点差を詰めていく。2点差になった11分07秒、市邨タイムアウト請求。直後に市邨・伊藤の個人技からの得点で、市邨はペースを掴む。華陵・岡﨑のシュートなどで追いすがるも、市邨は高さを生かした攻撃で確実に加点。粘る華陵を引き離した市邨が決勝に駒を進めた。

水海道第二　34（18－14、16－11）25　高水

今大会、安定した試合運びで勝ち上がってきた茨城・水海道二と山口県勢の一角・高水との対戦。高水のスローオフで試合開始。序盤は双方速い展開からの攻撃で点を取り合うが、8分までに水海道二の相澤とサイドの江口がそれぞれ4得点をあげる活躍。一方高水はミドルシュートが連続して阻まれリズムに乗れず、水海道二が10対4と6点差をつけた。その後は双方とも3連続得点を二度取り合うなど点差はつまらなかったが、前半終盤に高水が2点連取し18対14の4点差で前半終了。

後半高水は横田を中心とした攻撃で追撃を開始。ポスト・速攻・ミドルなどが決まりだし得点を重ねるが、要所で水海道二・斉藤のカットイン、相澤のミドルが決まり、追い上げムードが断ち切られる展開でゲームは進んでいった。高水は横田が得点と気を吐いたが、それを上回る水海道二のフローター陣のミドル・ロングシュートの威力に軍配が上がり、水海道二が堂々たる試合はこびで34対25の9点差をつけ勝利し、決勝進出を果たした。

■決勝

水海道第二　21（7－8、14－8）16　名経大市邨

準決勝で共に山口県勢を破った名経大市邨と水海道第二の対戦。名経大市邨は今大会、平均失点18と安定したDFと高さを生かした攻撃で準決勝以外は接戦をものにしてきた。対する水海道第二も平均失点20点、エース相澤の活躍で優勝候補の一角として安定した戦いぶりで決勝へ進出してきた。両チーム1年生の活躍が目立つのも特徴。

立ち上がりは両チームともリズムが作れず、攻撃の糸口が掴めない。4分43秒、均衡を破ったのは水海道第二・相澤のロング。名経大市邨はポスト織田を使った攻撃で得た7mTで追いつく。その後、15分過ぎまで一進一退の攻防が続くも市邨GK神谷の好セーブ連発がムードを変える。27～28分台の連続得点で、両チームにとって我慢の時間帯が続いた前半が1点差のロースコアで終了した。

後半は一転、スコアが動く。開始早々、水海道第二・小林のシュート、名経大市邨・野間のロングなどで点を取り合う。水海道・江口のサイドシュートがたて続きに決まり、17分過ぎに逆転。続いて相澤のロングで2点差になったところで、名経大市邨タイムアウト。ポスト織田を使った攻撃で必死に追いすがるも、流れを引き寄せた水海道第二の猛攻で点差が開く。5点差がついて終了のホイッスル。歓喜の輪がコートに。大会を通じて力を発揮した水海道第二。神戸の地で一足早い満開の花を咲かせた。

2016リオデジャネイロオリンピック出場12カ国決まる（男子）

1. ブラジル（開催国）

2. ドイツ（ヨーロッパ大陸予選1位）

2016年1月15日からポーランドで開催された第12回ヨーロッパ男子選手権は、31日に最終日を迎え、ドイツがスペインを破り王者に輝いた。ドイツは29日の準決勝でノルウェーを延長戦の末下し、決勝戦へ。スペインとは1次リーグで対戦し29対32で敗れていた相手だが、立ち上がりから先行すると、リードを活かした展開に持ち込んだ。守っては今大会の“シンデレラ・ボーイ”GKヴォルフがビッグセーブ連発で経験豊富なスペイン攻撃陣を沈黙させ、一度もスペインにリードを許さなかったドイツが24対17で快勝。戦前の予想を覆してヨーロッパチャンピオンになり、リオデジャネイロ・オリンピックの出場権を獲得した。

【最終順位】 1：ドイツ　2：スペイン　3：クロアチア　4：ノルウェー　5：フランス　6：デンマーク　7：ポーランド　8：スウェーデン　9：ロシア　10：ベラルーシ　11：マケドニア　12：ハンガリー　13：アイスランド　14：スロベニア　15：セルビア　16：モンテネグロ

3. エジプト（アフリカ大陸予選1位）

第22回アフリカカップには、2016年1月30日、開催都市のエジプト：カイロに12チームが参加した。準決勝で、エジプトはアンゴラと対戦し25-15で勝利、一方、チュニジアはアルジェリアを27対18で破り、それぞれ決勝に進んだ。決勝は、エジプトとチュニジアのスリリングな展開となったが、21対19でエジプトが優勝した。この大会チャンピオンのエジプトはリオオリンピックへの出場権を獲得した。

【最終順位】 1：エジプト　2：チュニジア　3：アンゴラ　4：アルジェリア　5：カメルーン　6：モロッコ　7：コンゴ　8：コンゴ　9：リビア　10：ナイジェリア　11：ガボン　12：ケニア

4. アルゼンチン（パンアメリカ大陸予選2位）

2015パンアメリカン競技大会は2015年7月、カナダ・トロントで8チームが参加し、予選リーグと決勝トーナメントが行われた。決勝試合は、予想通りブラジルとアルゼンチンとなり、前半アルゼンチンは11対9と2点リードで折り返すも、後半はブラジルが15対13と同点で終わる。延長はブラジルが制し、29対27で勝利した。この結果、ブラジルは開催国としてリオオリンピック出場が既に決まっており、2位のアルゼンチンがリオデジャネイロ・オリンピックの出場権を獲得。

【最終順位】 1：ブラジル　2：アルゼンチン　3：チリ　4：ウルグアイ　5：プエルトリコ　6：キューバ　7：カナダ　8：ドミニカ

5. カタール（アジア大陸予選1位）

2015年11月14日から27日、カタール・ドーハに11カ国が参加して開催された。日本は予選リーグにてグループ3位となり、リオデジャネイロ・オリンピック出場権を逃した。

【最終順位】 1：カタール　2：イラン　3：バーレーン　4：韓国　5：日本　6：サウジアラビア　7：イラク　8：中国　9：オマーン　10：オーストラリア　11：ウズベキスタン

6. フランス（世界選手権1位）

2015年世界男子ハンドボール選手権はカタールで2015年1月15日から2月1日まで24カ国が参加し開催され、フランスが開催国のカタールを25対22で下し5度目の優勝、リオ五輪出場権も獲得した。

【世界選手権最終結果】 1：フランス　2：カタール　3：ポーランド　4：スペイン　5：デンマーク　6：クロアチア　7：ドイツ　8：スロベニア　9：マケドニア　10：スウェーデン　11：アイスランド　12：アルゼンチン　13：オーストリア　14：エジプト　15：チュジニア　16：ブラジル　17：チェコ　18：ベラルーシ　19：ロシア　20：ボスニア・ヘレツェゴビナ　21：イラン　22：サウジアラビア　23：チリ　24：アルジェリア

■ 2016年4月開催の最終予選（3カ国開催）

7. スロベニア
（IHF最終予選トーナメント（スウェーデン）1位）

8. スウェーデン
（IHF最終予選トーナメント（スウェーデン）2位）

【順位】 1：スロベニア　2：スウェーデン　3：スペイン　4：イラン

9. デンマーク
（IHF最終予選トーナメント（デンマーク）1位）

10. クロアチア
（IHF最終予選トーナメント（デンマーク）2位）

【順位】 1：デンマーク　2：クロアチア　3：ノルウェー　4：バーレーン

11. ポーランド
（IHF最終予選トーナメント（ポーランド）1位）

12. チュニジア
（IHF最終予選トーナメント（ポーランド）2位）

【順位】 1：ポーランド　2：チュニジア　3：マケドニア　4：チリ

～愛称、認知されていない？～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

リオ五輪は男子に続いて女子「おりひめジャパン」も出場権が得られなかった。最後に残っていたキップ獲得の戦い、世界最終予選に臨んだ「おりひめ」は、最終戦で地元フランスと対決したが、白星を呼び込めず、あと1勝が逃げていき、40年ぶりの悲願はならなかった。

4年後の東京五輪に向けて、どのように戦力アップし、世界の強豪と戦えるか、すぐさま強化方針・体制を整えることが急務である。

ところで先日、テレビを見ていて残念というか、悔しいと言うべきか、たまらない気持ちになった。

ご覧になった人もいると思うが、大まかな内容を紹介する。

最近、多くの競技が○○ジャパンと愛称をつけているが、覚えられないし多すぎでは…との声に、主な競技団体の愛称が一覧表にまとめられて画面に映し出された。確か12競技の愛称だったと思う。

サッカー女子の「なでしこ」などはよく知られているが、こんな競技にも愛称がつけられているのか、といったものまであった。

ところが、である。ハンドボールは見当たらない。再確認したが、やはりない。この後にも紹介されるのかと期待したが、結局は「おりひめ」の「お」も出てこなかった。

なぜなんだ一悔しさをグッとこらえながら、つとめて冷静に考えてみた。

ハンドボールという競技が世間一般に認知されていないからだろう。放送界、とりわけテレビの世界は世相や流行にはきわめて敏感だ。カーリングが一躍、脚光を浴びたし、五郎丸人気のラグビーもいまやトップスポーツの仲間入りしたといえるほど、再三取り上げられている。

ところがオリンピックにも長らく縁のないハンドボールは“蚊帳の外”に置かれても仕方ないのかも知れない。勝負の世界の厳しさだが、このまま指をくわえて「はい、そうですか」ではすまされまい。

テレビで取り上げられるかどうかは別として、ハンドボールという競技を世間に知ってもらえるような仕掛けがもっと必要だろう。国際大会での勝利が最大の呼び水になるが、強化と並行して普段からのアピールが当然ながら大切である。

専門誌が行ったリーグへの要望でも、試合数や加盟チームの増加を望む声が圧倒的に多かった。試合数やチームが増えれば、それだけ多くの人に関心・興味を持ってもらえるし、認知度を高めるチャンスが増える。衆知を集めて、これから仕掛けをどうするかが重要だろう。手をこまねいているわけにはいかない。

JHAジュニアアカデミー訪問レポート

2015年度の日本代表は、男子日本代表はリオ五輪アジア予選では敗退したが、その後のアジア選手権で3位入賞を果たし、2017年の世界選手権の出場権を獲得、一方、女子日本代表はリオ五輪アジア予選で2位となり世界最終予選に出場したが、直前の世界選手権では参加24カ国中19位で終えた。学生（男子U-24は13チーム中11位、女子U-24は12チーム中11位）、ジュニア（男子U-21は世界ジュニアで24カ国中18位・女子U-20はアジアジュニアでは6カ国中2位で翌年の世界選手権への出場権を獲得）、ユース（男子U-19は世界ユースで24カ国中20位、女子U-18はアジアユースでは7カ国中2位で翌年の世界選手権への出場権を獲得）と、各世代がアジアを勝ち抜き世界レベルでおのおの活躍をしている。

2008年10月に開講したJHAジュニアアカデミーから現日本代表選手を輩出しており、NTS、インターハイ、選抜大会などで発掘した大型選手を中心に、個の力を最大限に伸ばす取組みを図っている。現場で陣頭指揮に当たる田中茂アカデミーコーチは、「アカデミー受講生はインターハイ等県予選敗退の選手の中からも選ばれており、同世代が世界選手権などで活躍している姿に刺激を受け、一層頑張ろうとする意識高揚にも繋がっている。また、体力強化のみならず以前より取り組んできているルールの遵守や権利と義務など、将来の代表選手としての心構えの習得にも力を入れている。さらに、体格向上には食育が大切である事から、食事の度にANTC専属の管理栄養士の協力を得て個別指導に取り組んでいる。今年も5月には開講したいところであるが、8月のリオオリンピックを控え相当の競技団体がANTCを利用する計画があり、秋以降に本格化せざる得ない状況も出てきている。昨年から、GKコーチを招聘して専門に指導する体制を作っており、男女各18名を目処にジュニアコーチ2名、専任コーチ1名の態勢で活動する予定である」と熱く話された。

中田凌河さん（高岡向陵高校）

自分は細身なので、体造りの面で筋力トレーニングや食事の指導など大変に勉強になっている。体重が増えても今まで以上に走れる選手を目指して、今後とも体力面の強化に努めたい。進学後の大学でもレギュラーを取り、ジュニア・アンダーなどの代表にも選ばれ、2020年にはオリンピックのコートに立っている選手になるのが夢である。

木村圭汰さん（北陸高校）

筋力アップ、体力向上、そして食事と、全てが自分にとって身のある成果に繋がっている。自分だけでなくチームにも伝えているが、全体で取り組んでいければとも考えている。3年生となる2016年には、選抜・インターハイなどの全国大会で優勝し、U-19から招集されるなど、選んで良かったと思われる選手に成長したい。

阿部奎太さん（学法石川高校）

自分では体力が無かったけれど、ここでの1年間の練習を通して、筋力や体格が確実にアップしており、参加できて本当に有り難かった。大学進学後には上級生に負けず、1年生でも試合に出場できるように努力していきたいし、アンダーカテゴリーの代表選手にも選ばれるようになりたい。

左から中田凌河さん・木村圭汰さん・阿部奎太さん

中山佳穂さん（夙川学院高校）

この1年間2回ほどしか参加していないが、厳しい合宿をこなしてきて身体の強化など、普段学校では出来ない練習等により、もっと意識を変えていかなければと感じた。ここでの成果を活かして、U-18カテゴリーの代表選手として日頃から世界を意識し、自分には何が足りないのかを学んで強化していきたい。そして次の日本代表を担える選手として、2020東京オリンピックにも出場したい。

田中葉月さん（日大山形高校）

2年生からアカデミーに参加しているが、体力の増強などに優れた環境が整備されており、この場に自分が参加できて嬉しいと思う。他の選手の行動を見て刺激を受ける機会が多々あり、学校に戻っても高い意識で練習が出来るようになった。大学に進学しても一層自分を磨いて、2020年の日本代表選手に選ばれるように努力していきたい。大学卒業後には地元の高校教員となり、より多くの人にハンドボールを広めたいと考えている。

辻野桃佳さん（神戸星城高校）

9月から参加し半年ではあるが、厳しいトレーニングの中で周りの選手から今までに経験したことの無い刺激を受けている。学校に戻った際には、他の部員にもアカデミーの体験を伝え、チーム全体のレベルがあがるようにしていきたい。4月からはチームを引っ張る立場になるが、何事にも自分から積極的に発信して、世界でも活躍できる選手に成長していきたいと考えている。

左から中山佳穂さん・田中葉月さん・辻野桃佳さん

ジュニアアカデミー出身者からのメッセージ

笠原 謙哉　トヨタ車体ハンドボール

■ジュニアアカデミー活動の思い出

JHA ジュニアアカデミーのみなさん、こんにちは。このアカデミーの第一期生であり、現在はトヨタ車体ハンドボールチームに所属している笠原です。

今、こうしてアカデミーでの活動を振り返るとさまざまなことが思い出されます。その中でも最も印象に残っていることは、全日本総合選手権に出場したことです。アカデミーの趣旨は個人にスポットを当てて強化することにあります。ですから、トレーニングも当然、個人の能力を伸ばすためのものばかりでした。そんななかで全日本総合選手権に出場することが決まって、下は中学3年生（15歳）から上は大学4年生（22歳）に至る全員で"チーム"として活動することができたことはとても貴重で素晴らしい体験でした。本大会では、私の所属する東海大学（当時）が一回戦で負けた全日本学生選手権でベスト4に入った早稲田大学に勝つことができた喜びと、今後に向けた"可能性"を示さなければならなかった琉球コラソン戦で力を発揮できず、関係者のみなさんの期待を裏切ってしまったことに対する悔しさの2つが入りまじり、余計に強い印象として残っています。

当時、周囲の期待を裏切ってしまったという自責の念は、「必ず日本代表になって恩返しをしよう」という思いにつながり、現在のトレーニングのモチベーションになっています。

■後輩たちへ

まずみなさんは日本ハンドボール界の"未来"であり"希望"です。また、みなさんの身体は日本ハンドボール界の"財産"です。トレーニング中は直近に試合があるわけではありませんから、目標の設定がしづらく、プレッシャーもかかっていないかもしれません。しかし、みなさんには期待、お金、時間など様々なものがかかっていることを忘れてはいけません。みなさんの年代である高校卒業あたりから大学卒業あたりの期間に急激に世界との差は開いていきます。なぜなら、世界ではその時期にプロになり、トップリーグに所属し"アスリート化"していくからです。

みなさんのトレーニングは今のままで良いですか？　食事はアスリートのそれですか？　フィジカルは足りていますか？　そのことを自覚して常に世界との差は広がっていないか？　差は縮まっているか？を考えながら日々の生活を送ることを期待します。

厳しいことを書きましたが上でも述べたようにあなたたちにはそのくらいの期待がかかっています。しかし、未来は常に明るいものです。若い皆さんには希望しかありません。私もみなさんに負けないようにトレーニングを続けていきます。日本のハンドボール界のために共に頑張りましょう。

ジュニアアカデミー出身者からのメッセージ

棚原　良　琉球コラソン

■ジュニアアカデミー活動の思い出

僕が参加したジュニアアカデミーは確か大学1年時だったと思います。一期生として参加させていただいてスタッフ陣も多く、特に当時バルセロナBのコーチもしていたトニの指導には刺激を受け、バルセロナに入りたいとアピールしていました。（笑）

また、当時僕は後輩の名前（高校生）を全く知らず、正直にいうと興味を示していませんでした。ですが、一緒にプレーしている内にこんなに魅力的な存在が後輩にいたのかとビックリしたのと、先輩として絶対負けないとライバル視していたのも記憶に新しいです。以上を踏まえての思い出ですが、1番大きく思い出として残っているのは、朝が早くて辛いことでした。（笑）

■これからのアカデミー生にメッセージ

アカデミーでは、大変多くの学びと刺激があると思います。ライバルの出現、優秀な指導者との出会い。切磋琢磨してトレーニングに励んでほしいと考えています。またこの時期から世界に目を向け、必ず世界でメダルを獲ると全員が本気で強い気持ちを持ってほしいです。その意識付けに協力できるよう、僕も世界に『日本人は凄い！』と言わしめるように努力していき、みなさんに希望を持ってもらえるように頑張ります。

競技運営に関する通知

（平成 28 年 4 月 1 日実施）

（公財）日本ハンドボール協会　競技本部長　江成 元伸

平成 28 年度、公益財団法人日本ハンドボール協会（以下、本協会という。）主催の各大会、競技を実施するに際し、下記の事項について改正または競技運営の趣旨の徹底を図るよう関係者に連絡をお願いします。

平成 27（2015）年 1 月に開催された国際ハンドボール連盟（以下、IHF という。）主催の男子世界選手権、平成 27（2015 年）12 月に開催された同女子世界選手権の実施状況からの情報を参考に、早期に「国際基準」に到達するよう改善すべきところは早急に着手するべきとの考え方で進める。オリンピック、世界選手権で設営している施設、設備および運営方法は可能な限り取り入れていくこととするが、開催体育館の施設、設備によって現実的に対応できない点も多々あり、経済的負担も考慮し対応していくこととする。

本協会の主催大会である日本選手権は、下記に示す内容で管理・運営する。本協会共催大会、加盟団体の主催大会もこの「国際基準」に併せて管理・運営されることが望ましい。

なお、平成 28 年 7 月 1 日、IHF は競技規則改正を予定している。本協会としては平成 28 年度早々から、新競技規則を取り入れられる環境にあれば適用していただくようご案内していることから、一部変更についても記載する。なお、IHF から正式な競技規則書が送付された段階で、改めて競技運営に関する通知を発表する。

記

1 本協会が主催する大会は、本協会競技本部の責任の下、大会競技委員会を編成し、競技運営部役員、審判部役員が管理・運営にあたる。

2 本協会の主催する大会の各試合は、本協会が指名する日本協会オフィシャル（以下、JHA オフィシャルという。）、本協会が指名するタイムキーパー、スコアラー（従来は総称してテクニカル・デレゲート（以下、TD という。）と呼称していた。）および主管団体が指名する補助員（タイムキーパー、スコアラーの補助）で管理運営にあたる。

3 IHF は記録席をジャッジーズテーブルと表記していることは昨年度に示しているところである。選手をプレーヤー、審判員をレフェリー、競技場をコートというように、日本語、カタカナ読みと区別していることと同様に扱う。

コートフロアより少なくとも 10 cm以上一段高くして設置する記録席には、両端に TD としてのタイムキーパー、スコアラーが着席し業務を行う。その間の中央部に補助員が着席し、記録用紙の作成、得点、退場者表示等の各種業務補助にあたる。

4 記録席後方にさらに一段高くした JHA オフィシャル席を設置する。本協会は過去にマッチバイザー席を設置していたが、国際基準としてこの設置方法とする。なお、会場の広さにより、JHA オフィシャル席が観客席に入り込むことはあり得る。世界選手権では予選はこの方式で運営されていた。ただし、過去には IHF オフィシャルがコートから見て記録席の左側に座り、その横にタイムキーパー、逆側にスコアラーが座っていたこともあった。

男女両世界選手権では、IHF オフィシャル席にビデオモニターおよび得点を確認するゴール内監視モニターが設置されていた。日本選手権は最終日ではあるが、テレビ放映があることからこの運営方法を取り入れることを検討している。

5 記録席、JHA オフィシャル席の後方に、可能であればさらに一段高くした大会競技役員席を設置する。この席には競技役員としての他 JHA オフィシャル、TD、試合分析班、主管団体競技役員が座ることとする。一段高くすることができなければこのレイアウトに従いテーブルおよび席を配置する。

6 公式記録用紙を改正する。従来の公式記録用紙（ランニングスコア）は試合の流れしか対応できないが分析の一部及び広報用として継続して使用する。原則として記録席の少人数対応を意図していることから、後方の競技役員席もしくはその他の席で記録をとる。広報関係者及び観客へのサービスとしての配布は公式記録用紙及びランニングスコアとする。

7 ゴールは本協会仕様のままとする。両世界選手権ではゴールのバーの下部にカメラを設置し、ゴールラインを超すか超さないかの微妙な得点の確認を実施していた。ただし、女子の世界選手権でビデオで確認したにもかかわらず判定に誤りがあったことから、その後は取り外された。国内での実施は機器の開発が伴うことから今後の検討課題となる。

8 ネットは本協会が検定しているネット、キャッチネットと同様の設営をしている。キャッチネットは従来通り上部をワイヤーもしくはロープでネットに巻き付ける方法をとる。キャッチネットのつり下げ方法は競技本部が指示している方式（キャッチネットがゴールのバーと可能な限り平行になるように取り付ける。）が適切と判断でき、国内方式は国際基準を上回っていると判断する。ボールがキャッチネットに絡みつく原因の多くはキャッチネットがコート床に接着していることによることが原因としてあげられる。キャッチネットの長さについては、試合開始前に調整しなければならい。

9 交代地域に置く選手用の座席はベンチもしくはイスを用いる。数は 16 名分とする。可能であれば連結イスが望ましい。交代地域ラインからセンターライン方向に 2 席分設置することは従来通りである。最終のイスから約 1m のところに交代地域の最遠端を示すラインを引く。おおむね 7m ラインの延長線上とし、ここまでが交代地域とする。最終イス、ベンチの外側での作業を可能とする。サイドラインと交わることなく、サイドラインから 50 cm離し、80 cm～ 100 cmの長さとし、ラインの色ははサイドラインと色を変える。

10 松ヤニボックスは女子の世界選手権では本協会が使用している形態のボックスが使用されており、国内使用と変わっている点として、松ヤニを置く台の下にゴミ箱が設置されていた。国内で市販のボックスが用意できないときには参考にしたい。また、男子の世界選手権では松ヤニを置く台だけで、細い棒状のスタイリッシュな松ヤニ置き台であった。

使用されていた松ヤニボックスに広告は掲出されていない。

11 両世界選手権ではタイマー、得点、退場者表示に関する装置として、観客から見やすい表示装置として天井からつり下げられたオーロラビジョンタイプを使用していた。女子の世界選手権の表示はプレーの再生、得点、退場者表示、チームタイムアウトの秒数および回数の表示をしていた。国内の実施状況からこの装置を標準装備とするには時間が必要であると考える。今後、2019年に熊本で開催される女子世界選手権、2020年の東京オリンピックでは必須の設備となる。

なお、男子の世界選手権では出場選手のリスト表示、その選手の得点表示、退場表示が表示板として掲出され、これらの装置は今後開発が望まれる。当面は、電光表示板の代わりとしての表示形態も検討したい。

12 試合開始前のセレモニーは世界選手権を含め、各大会で若干の違いは報告されているが、原則として国際基準を取り入れたい。従来から各種の入場方法の中でレフェリー先導で入場することは実施してきた。一例としてレフェリーが先導しプレーヤーが後に続く方式、レフェリーが先にコート中央に位置して一斉もしくは一人一人ベンチから入場する方式等、試合開始時間との関係もあることから大会によって方法は自由とする。

日本選手権では大会後半に下記の方法を取り入れたい。まず日本協会旗が入場し、正面席に位置する。選手入場はAチームがレフェリー先導によりコート中央に行進、整列する。世界選手権ではレフェリーの次に国旗、日本選手権ではチーム名表示プラカード、その次に背番号順にプレーヤーと続く。チームAは自コートで整列し、Bチームは A チームとハイタッチしながら反対側の自コートに整列する。関係者の紹介順は最初はチームキャプテン、以下背番号順に選手、チームスタッフと続く。両チームが終了した後、JHA オフィシャル、両 TD、レフェリーの順とする。

世界選手権における国歌演奏は、各チームの先頭に位置する国旗に対して儀礼をしていた。

13 閉会式等セレモニーは平成27年10月に愛知県で開催したリオ・オリンピックアジア女子予選で実施した表彰式、閉会式手順が国際基準であったことから、日本選手権では原則この方式を導入する。優勝チームを含めチーム全員が登壇できる優勝チーム壇、2位、3位チーム壇を設営する。大会によっては平壇でもよい。各列の全面下部に、優勝、2位、3位であることを表示する大きめのプレートを置く。平壇の場合は、カーペットを引くことで華やかさは演出できる。

女子の世界選手権では表彰式および閉会式準備の間、生ライブ演奏を実施した。

入場は参加国旗、先導に続き IHF 協会旗、各種トロフィー、メダルの入場がある。チーム団は2位表彰チーム側から入場すれば先頭は3位チーム、優勝チーム、2位チームとなる。このとき、チーム役員も一緒に入場する。優勝チームは表彰壇の後方に位置し、3位表彰、2位表彰を表彰壇の後ろで待つ。

その後、各プレゼンター6名の入場および紹介を行う。

最初に会長が挨拶をする。挨拶終了後、3位チームから整列した場所で順番に表彰メダルを授与する。プレゼンターは2名とし、メダル授与者および記念品授与者とする。メダル授与後、カップの贈呈となる。授与終了後、3位プレート前でプレゼンター及び選手と記念撮影を行う。2位表彰の後、優勝チームの表彰となる。

優勝チームの儀礼は会場に掲揚してある参加国の国旗とは別に、表彰として3チーム国の旗の掲揚が行われる。国内大会では表彰のためのチーム旗掲揚は行わない。

国内ではその他の表彰式典があるので、上記セレモニー進行を基準として、適宜その他の表彰式典を組み入れる。

優勝チームは表彰壇の後方に下がり、セレモニーが続く。世界選手権はオリンピック形式と同様に、IHF 旗を開催国会長が IHF 会長に手渡し、その後次回開催国会長に手渡し3名が退場してセレモニーは終了する。

撮影は TV カメラ、主催者カメラを除き、撮影区画の制限をする。

14 主催者席および会場正面として、女子世界選手権ではベンチ後方最上席を IHF・VIP 席としていた。試合開始前の挨拶は記録席前に IHF 旗が置かれ、プレーヤー・レフェリーはベンチ後方の主催者席を正面として整列した。カタールの男子世界選手権ではこれとは逆に整列していた。本協会は今後本協会役員および来賓が座る席を主催者席と呼称し、この席のある方向を正面とする。原則として記録席側とする。日本選手権ではこの配置を元に運営する。

15 主たるテレビカメラ群として、女子の世界選手権では会場正面上部に設置されていた。ヨーロッパハンドボール連盟のマニュアルではカメラ設置席はベンチ側上部とされている。

16 最近の他競技では広告ボードは電光表示となっている。また、フロアだけでなく、観客席にある壁面を利用した広告ボードも設置されている。将来的にこの設営ができるように検討する。広告ボードは正面席からボードが見える配置とする。正面席側にテレビカメラが設営されることから、必然的にテレビ画面に広告ボードが映り込むこととなる。世界選手権はフロアに設置する広告ボードは電光表示板であることから、コート側だけが掲示される。

17 レフェリーが認めていない得点に関する措置について、平成26年度末に開催された第38回全国高等学校ハンドボール選抜大会の顛末および今後の対応について、改めて整理する。

レフェリーが認めていない得点に関して、記録席役員が誤って加点した得点に関しては試合終了後であっても修正しなければならない。特に、勝敗に関する場合は再試合を含めて早期に解決するよう対応する。

当該事例でいえば、レフェリーが認めていない不適切な得点記録を修正する最終確認が行われた時点は試合終了時である。修正した結果は明らかに勝敗に関連する同点ということであったことから、次の試合を開始せずに、速やかに延長戦を行うべきであった。次の試合が始まったとしても、不適切な得点管理が判明しその結果勝敗がつかない場合は、当日中、もしくは翌日にその状況から再開する必要があった。

18 レフェリーが認めた得点の試合中の得点表示の誤り、もしくは退場者の排除が適切に行われなかった事例等は、原則として試合中の得点の修正、試合中の退場処置は必要であるが、前項の再試合の対象とならない。昨年度の平成27年4月1日付けの競技本部長通知により、平成27年度各大会において適切に競技運営がなされるよう通知により指示をした。このことは平成28年度も継続する。

1）従来通り、競技運営中不適切な処置が発現された場合は、そこまでの競技結果（得点、罰則等）は成立させ、明らかになった時点から適切な処置を行った上で競技を再開するという処置を再確認する。例えば、退場になった選手が何らかの理由から退場せずに競技に出場し得点をあげていたことが判明した場合、退場しなければならなかった事実が明らかになった時点で退場とし、それまでの得点等は記録として成立させるということである。なお、この場合の責任はレフェリー、TD、JHAオフィシャルにあることから、選手にそれ以上の罰則を付加しない。

2）レフェリーは得点となったこと、得点でないことを明らかなジェスチャー等で表現し、記録席及び観客にわかるよう表現する。TD、記録席員は得点があったときはレフェリーと相互に確認し合う。レフェリーは得点を管理しておかなければならない。

当該事例でいえば、着地、ラインクロスの判定は得点と間違いやすいことから、レフェリーは大きなジェスチャーをすることが必要であり、誤って得点が加算されないよう得点掲示に配慮する必要があった。

3）得点となったときの記録用紙（ランニングスコア）の書き方の再確認を行う。得点の合図があったときは得点をあげた選手の背番号を記入し、累積の得点を記入する。その後、スローオフの笛の合図によって得点の時間を記入することで得点が確定する。ゴールに入ったときの時間を記入することが慌てることによるミスを起こすことにつながり、正しい記録の記入の仕方でない。TD（スコアラー）は補助員の作業を注意深く指導する必要がある。記録席では試合終了後に新公式記録用紙に記録されることから、記録用紙もしくは補助用紙に記録し、最終的に照合して記録用紙に記入することとなる。世界選手権ではTDの業務である。

19 JHAオフィシャルおよびTDの任務、平成28年度版を発行した。平成27年度版は「TDの任務」としたが、今年度は主催者オフィシャルとしての位置づけを確立させJHAオフィシャルという語句を挿入した。

（1）主催者オフィシャルとしてのJHAオフィシャル及びTDの任務を確認し、適切な競技運営がなされることが求められることを強調した。

（2）事実判定を除いた異議申立てについては、真摯に対応し、適切に判断する。チームからの異議申し立てができる時間を、試合終了後1時間以内とする。

異議申し立ての有無にかかわらず、必要があれば裁定委員会を開催し、原則としてその場、もしくは当日中に判断、その後の対応を決定する。

国際連盟では、試合終了後1時間以内に500スイスフラン（平成28年3月現在のレートは約57、000円である。）を添えて抗議（異議申し立て）をすることができる。また、2時間以内に異議申し立て書の提出が義務づけられている。裁定委員会で審議し、試合終了後5時間以内に決定を行う。

裁定委員会の決定に不服がある場合は、通知書を受理してから2時間以内に1500スイスフラン（平成28年3月現在のレートは約171,00円である。）を納付し上告することができる。審議の上、4時間以内に最終決定を行う。この決定は最終のものである。

いずれの場合も申請が却下された場合は提出した納付金は没収となる。

平成28年4月の時点では納付金を義務としないが、しかるべき時期に金額を決定する。

（3）平成20年度から裁定委員会は選手、チーム役員、レフェリー、大会関係者による重大な過失を伴う行為、処置も対象としてきた。

20 JHAオフィシャルおよびTDの服装について

JHAオフィシャルおよびTDとして統一したブレザー等の服装またはスポーツウェアーを着用する。

21 競技中に外傷等が発生した場合についての措置

出血を認める場合はコート内に留まることは許されない。レフェリーが交代地域に行くことを指示する。止血の確認がなされた後、競技参加が可能となる。骨折、脱臼といった整形外科的外傷、脳震盪、心臓震盪、その他競技に出場することで選手の健康が明らかに阻害されると判断できる場合は、医師、専門家の判断を参考にして、チームの判断で出場の可否を決定する。誰が見ても明らかに競技することが適切でないと

判断される場合は、競技に参加することができない。

22 感染症に関する熱中症、感染症対策は、大会本部だけではなく、各チーム、関係者の協力を得て防疫体制を整えるとともに、感染防止の知識の普及及び意識の啓発を図る。健康上異常があるとき、または異常があると疑われるときには出場可否に関する判断は大会本部が行うものとする。

23 レフェリー・TD・JHA オフィシャルの間で通信機器の使用を積極的に推進する。通信機器は公的な電波を利用することから、短時間の交信で、的確に行う。交信の内容として、事実判定に関する指摘は避けなければならない。JHA オフィシャル、TD は、レフェリーが見ることのできなかった失格相当の違反を助言することができる。

24 本協会競技委員長、本協会審判長は競技運営を円滑に推進するため、また、レフェリー育成のため、記録席または別の場所から通信機器を用い、レフェリーに各種のアドバイスをすることができる。

25 ユニホームは自分のチームを含めて、はっきりとコートプレーヤー、ゴールキーパーと区別できる色を用いなければならない。競技本部として、白一色を用意することを推奨する。ユニホームに高さ 20 ㎝以上の背番号、高さ 10 ㎝以上の胸番号をつけなければならない。背中に名前を入れる場合は、高さ 10 ㎝以内とする。ユニホーム、短パンツ、ソックスに表記されるメーカーロゴの大きさは、IHF が規定している 20 ㎝^{2} を超えてはならない。

平成 27 年度に実施したジャパンオープントーナメント、国体、日本選手権では厳格に対応し、規則に合致していないユニホーム等については使用を禁止した。この措置により、各チームは指摘を受けた後それぞれ規則に合致するよう対応し、規則に合致したユニホームのみが試合に使用することを許可した。

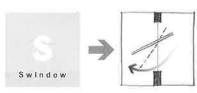
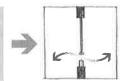
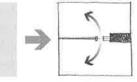
26 相手チームのコートプレーヤーとチーム役員のウェアーの色が同色であってはならない。試合前のユニホームの確認時、試合前のウォームアップ時に JHA オフィシャル、TD、レフェリーは気がつかなければならい。試合中であっても違う色のウェアーに変えなければならない。女子の世界選手権ではチーム役員がビブスを着用していた。

27 試合中、交代地域にスペースがあればウォーミングアップをすることができる。ウォーミングアップを中断するようであれば、直ちに座るよう指示をする。ウォーミングアップ中にコート内に向かって指示を出すようなとき、試合の判定に反応して声の大小にかかわることなく、もしくはジェスチャーをしたときは、直ちに座るよう指示をする。状況によってはスポーツマンシップに反する行為として、レフェリーを呼び、罰則を適用させる。

28 チームタイムアウト請求カード（グリーンカード）は、チーム役員が記録席の机の上に置かなければならないとしていたが、コーチングゾーンを越えた場合、速やかに提出しなければならないことから、TD は手で受け取ってよいこととする。なお、チーム役員が不在の場合は、チームタイムアウトを請求できない。グリーンカードはチームタイムアウトを請求するときだけ、手に持つことができる。グリーンカードをもってコーチングゾーンを越えたときは、躊躇することは許されない。ブザー等で競技が中断し、レフェリーの合図の後、50 秒が計測される。50 秒の合図があった後、1 分で競技を再開するようにしなければならない。TD およびレフェリーは試合を速やかに再開しなければならない。

29 交代地域では、チーム役員、選手のあらゆる通信機器の使用を禁止する。試合の記録媒体として通信機能があると思われる電子機器の情報端末の使用も禁止する。男子の世界選手権で韓国のコーチが i-pad を使用したという報告があるが、世界選手権の他の試合ではその事実を見ることはなかった。先般来、IHF に問い合わせをしているが未だ回答がない状態である。通信機器ではないが、メガホンの使用を禁止する。

30 試合中、選手、レフェリー及び関係者にレーザーポインターの照射が認められたとき、IHF では下記のように対応していることから、本協会でも同様の手続きを行う。照射に気がついた関係者が JHA オフィシャルに報告し、会場アナウンサーを通じて照射をやめさせるよう放送をする。照射が行われるようであれば、選手他の健康を考慮して無観客試合とすることもあり得ることを放送する。

31 ゴール等の競技用具の事故防止等の安全管理に、さらなる配慮をする。近年、学校等でのゴールの転倒または損壊等による人身事故の報告はないが、設置責任者のみならず使用者責任として安全管理には特段の配慮を求める。

2015年度
NTSセンタートレーニング報告

NTS委員長　田口　隆

【開催日時】高校生の部：平成28年1月4日(月)～1月6日(水)
　　　　　　中学生の部：1月9日(土)～1月11日(月)
【会場】味の素ナショナルトレーニングセンター
【参加者】※延べ人数
※NTSスタッフ　67名（技術指導、運営、審判、メディカル、情報分析他）
※補助指導者　高校の部16名、中学の部37名
※選手　高校生男子28名　高校生女子28名
　　　　中学生男子30名　中学生女子30名　合計236名

2015年度のNTSセンタートレーニングは、例年通り高校生の部が1月4日から、中学生の部が1月9日から、それぞれ2泊3日のスケジュールで、全国9ブロックから推薦された高校生、中学生総勢116名の選手と、21名のブロック推薦指導者、46名NTSスタッフの方々により、味の素ナショナルトレーニングセンターにおいて開催されました。初日には川上専務理事から、将来の日本のハンドボール界を託された世代の選手たちへ熱いエールをいただき、選手スタッフ共々一層気持ちを引き締めてスタートしました。

高校生の指導は、スーパーバイザーとして男子に大城章さん、岸本健太さん、女子では石川浩和さん、麻生薫さんを中心に展開され、またインストラクターとしてブロック推薦指導者として北海道ブロックから藤井浩史さん、東北ブロックから荒尾祐治さん、関東ブロックから小松理子さん、飯田健一さん、北信越ブロックから東川泰斗さん、石田光さん、近畿ブロックから楠本繁生さん、中国ブロックから河野裕光さん、四国ブロックから蟻川武司さん、九州ブロックからは松野武司さん、河原亮さん、松野雅崇さん、安田妙子さん、梶原健さん、船津久和さん、新垣英之さんの御協力のもとに、大変熱心な指導が繰り広げられました。中学生の部ではスーパーバイザーに男子の部、末岡政広さん、大城章さん、女子の部に尾石智洋さん、麻生薫さん、インストラクターにはブロック推薦指導者として東北ブロックから荒井啓貴さん、関東ブロックから山口悠歩さん、小松理子さん、東海ブロックから千種直也さん、中国ブロックから扇山貴司、九州ブロックから河原亮さん、長嶺重信さんの御協力のもとに、熱くかつ丁寧な指導が展開されました。また、GKコーチとして小松理子さん、河野裕光さん、石田光さん、松野雅崇さん、濱野健一さん、北野香代さんら、手厚いスタッフでご指導いただきました。

高校生の部では知的スキルの講義において、強化スタッフの佐藤壮一郎さんから「男子世界ジュニア選手権大会の報告」、石川浩和さんから「女子アジアユース選手権大会の報告」が行われ、世界大会に出場した日本の戦い方、世界のトレンドなどのお話を伺い、実際に大会に出場した初見実椰子選手、吉田瑞萌選手、金城ありさ選手には大会での経験談を語っていただきました。コーチセミナーでは、大城章さんより「世界のトレンドとトレーニング内容」について講義があり、欧州のトップチームの戦術やトレーニング方法についての新鮮な話題を提供していただきました。また指導委員会・藤本元委員長による「女子リオオリンピックアジア予選の分析」についての講義が行われ、先般愛知県で行われたリオ予選の分析結果を詳細に伝えていただきました。また、中学生の部では、尾石智洋さんから「女子U-16の報告」として代表選手としての立ち振る舞いなどのメンタルな部分の講義を行っていただき、実際に大会に出場選手の室田希緒さん、滝川莉奈さん、阿部美幸さんらに経験談を語っていただき、同年代の参加選手達への強い刺激となりました。

知的スキルにおいては、実技トレーニング以上に世界で経験した生の声や新しいプレーなど、選手たちの興味を引くに十分な内容であり、メモを取りながら真剣に取り組む姿が印象的でした。

日中の実技トレーニングでは「機動力を向上させるためのDFフットワーク」や「動きを伴ったパストレーニング」など、ファンダメンタルな部分のトレーニングをベースに、強引な突破のトレーニングやポストを使った2対2、3対3のトレーニングが丁寧な説明のもとに進められました。インストラクターの方々においては、モチベーションを高める声掛けなどもしながら、出来ない部分を掘り下げて指導するなど、スタッフそれぞれの役割分担も的確に行われていました。最終日にはゲーム形式の攻防トレーニングを行いました。初めの2日間のまとめとして、指導を受けたスキルを試す機会ということで前日から各グループでミーティングを行い、試合に向けてチーム作りや戦術確認を行うなどのチームビルディングも行われていました。短期間ではありますが、各ブロックの代表として全国から集まった高いレベルの仲間とトレーニングやゲームをすることで、多くの選手がさらに上を目指していきたいと考えるようになったと思います。

今回のNTSセンタートレーニングを終えて、間近に迫った2019年女子世界選手権大会、2020年東京オリンピックでの日本代表チームの活躍を想い描きながら、この先代表選手となるべくジュニア世代の選手達のさらなる進化を加速させるきっかけとして、これまで以上に質の高いNTSブロックトレーニング及びセンタートレーニングになるように関係スタッフの力を結集して進めていかなければならないと改めて強く感じました。

最後に、今回のセンタートレーニングを実施するにあたり、全国各地のブロックトレーニングの運営、指導にご尽力くださった方々、並びに選手を派遣していただいた所属チームの関係者の方々他、NTSに関わっていただいた全ての関係各位に改めて厚く御礼申し上げます。

2015NTS 関東ブロックトレーニング

NTS 関東運営委員長　菊田 政行

開催日時：2015 年 8 月 29 日（土）～30（日）、9 月 5 日（土）～9 月 6 日（日）
会場：神奈川県「横浜市立戸塚高等学校体育館」、「法政第二高等学校体育館」、「県立体育センター」、「海上自衛隊第二術科学校体育館」「横浜市金沢産業振興センター」
参加者（※延べ人数）：NTS スタッフ 37 名、補助指導者　63 名
選手：小学生 48 名、中学生 48 名、高校生 48 名

今年度の関東ブロックトレーニングは神奈川県協会の皆様のご理解とご協力の下、8月下旬、9月上旬の２週に渡り開催いたしました。関東ブロック８都県を２巡する 16 回目を数え、運営・指導面ともにスムーズに展開され、中学生・高校生のトレーニングは１泊２日で実施いたしました。

トレーニングはインストラクターを始め指導スタッフの熱意あるご指導のおかげで、意図が明確でポイントが理解しやすく説明・実践されていると、選手・補助指導者からも大変好評でした。

また、NTS 技術指導委員会よりディレクターの横手健太氏、亀井良和氏にご来県を賜り、スケジュールの中で選手への激励やトレーニングの指導を頂きました。昨年度より高校生の参加者が１・２年生に限定されたことにより、例年以上に将来性溢れる有望選手が集まった感があります。参加の選手並びに関係者には、この経験を糧に一層の努力精進をご期待いたします。

開催県のはからいで開催された夜の懇親会は、海上自衛隊第２術科学校・清水一己様、ディレクター、インストラクター、補助指導者、地元協会関係者、運営スタッフ等を交えての情報交換で大いに盛り上がり、ハンドボール談義に華が咲きました。参加者にとって大変有意義な研修の時間を過ごすことが出来ました。

今後の課題は、ブロックトレーニングへの補助指導者の参加率の向上を図る事と開催期間中に指導者の為の研修やディスカッションの時間を確保する事、中高生に実施している体力測定の結果についても複数年分の記録の推移を公開し、その結果に基づいたトレーニング処方を個々の選手に示すことと思います。『世界基準の強い選手』の育成を切に願うところです。

また、NTS への参加選手の輩出チームが、県によっては特定化される傾向にあり、NTS の方針なり情報・運営方法等が一部の関係者にのみに限られ、それ以外の方々に十分に理解されていないのが現状です。指導者の養成と資質の向上を目指し、選手を輩出しないチーム関係者のトレーニングへの参加機会を与えていただければと考えます。

各都県においては NTS 伝達講習会等を確実に実施していただき、NTS の情報が全チーム、関係者に速やかに浸透することを願います。

例年、開催の時期・会場等については施設の確保を最優先に、国体のブロック大会や各連盟の大会時期、さらには学校行事等を考慮して計画実施してきました。今後は NTS16 年間の成果や課題を念頭に、会場の確保や運営方法等についても検討を加え、改善して行きたいと考えます。

車椅子ハンドボールのデモンストレーションを開催

日本車椅子ハンドボール連盟事務局
沖　史也

日本車椅子ハンドボール連盟は、3月13日に京田辺市で行われたオムロン対HC名古屋の日本ハンドボールリーグ戦の終了後に、車椅子ハンドボールのデモンストレーションを行いました。京田辺市は1988年の京都国体でハンドボール競技の会場となり、市内の小学校、中学校、高校でハンドボールが盛んな市です。また、全国小学生ハンドボール大会は、毎年京田辺市で開催されています。

当日の日本ハンドボールリーグには多くのサポーターや観衆が詰めかけ、競技場2階の立ち見まで満員で大変盛況でした。日本ハンドボールリーグの後、ドリーマーズ（京都）と大阪ネルフ（大阪）が対戦し、車椅子ハンドボールのデモンストレーションを行ないました。試合は白熱した展開で、加えて明快な解説が車椅子ハンドボールの面白さ、楽しさを伝え、最後に多くの観客の大きな拍手で終了しました。このデモンストレーションが車椅子ハンドボールに触れる機会のなかった人達に興味を持ってもらう大きな機会になり、また、車椅子ハンドボールが普及することを期待しております。

最後になりましたが、デモンストレーションに開催するに当たりまして、京都府ハンドボール協会の役員、補助員の方々とドリーマーズと大阪ネルフの選手の皆様をはじめ、運営に当たってくださった多くの関係者の皆様に深くお礼申し上げます。

ドリーマーズの攻撃

観客

真下選手のシュート

篠原選手のシュート

福島選手のシュート

欧州選手権2016 優勝チームに帯同して

舎利弗　学

私は2015年９月より「（公財）日本オリンピック委員会スポーツ指導者海外研修員」として、ドイツ国内に派遣され、現在コーチ研修を受けています。

具体的な活動内容としては、「ドイツ男子代表チーム」において、強化合宿や国際試合に帯同し、コーチング視察・トレーニングサポート・戦術分析などを担当しています。代表活動のない普段の期間は、ブンデスリーガの「フクセ・ベルリン」において、上記の研修生活を送っています。

私は昨年９月の渡独以降、ドイツ代表合宿などに帯同する機会に恵まれ、１月に行われたヨーロッパ選手権（EURO）に帯同しました。

年末にベルリンで行われた強化合宿では、EURO参加のためのブンデスリーガ中断直後であり、さらに、EURO参加メンバーが決定後、初の合宿ということもあり、スケジュールの中に「チームビルディング」も取り入れられていました。具体的な内容は、夜のベルリン市内を専門のガイド（ランナー）の先導で、チーム全員でランニングしながら観光するといったものや、ボクシングジムに全員で体験入会をするといったものです。また、合宿の練習メニューにも、チーム全員で一つの課題を解決していくようなメニューが組み込まれていました。これらのプログラムは、チームワークの向上は勿論のこと、各選手が所属チームからナショナルチームへ帰属意識を転換する一助にもなったと感じました。

「世界一過酷な大会」と言われるEUROは、出場国のレベルが拮抗しており、全試合が高いレベルで繰り広げられ、イージーな試合は一つもありませんでした。

試合会場にて公式練習を行う際には、練習前、観客席等に他国のスカウティング担当がいないことや、不審なカメラ等がないことをスタッフで確認してからの練習開始となり、情報セキュリティーに対するリスクマネジメントの重要性を再認識するとともに、私自身の緊張感も高まりました。

チームの愛称は「バッドボーイズ」。チームが円陣を組んだ時の掛け声も「バッド！ボーイズ!!」でした。試合前のロッカールームには、スタッフが用意した「バッドボーイズ」のポスターが張り巡らされ、雰囲気を盛り上げていました。

大会前は優勝候補でなかったドイツ代表が、勝ち進むにつれて進化を遂げ、優勝候補といわれた強豪国を次々に打ち破り、ついにはヨーロッパチャンピオンになりました。同時にドイツはリオデジャネイロオリンピックの切符を手に入れました。

この結果は、ドイツ国民はもちろん、ドイツ協会内部の人間でさえも正直予想していなかった結果でした。というのも、チームの平均年令は24.5才と全出場国（16ヵ国）の中で最も若いチームであり、また、大会直前に複数の主力選手をケガで欠くチーム状況だったからです。

大会期間中も連日、多くのメディア取材が入るなど、スタッフ、選手ともにタフさが求められると感じました。

ダグル・シグルドソン監督のコーチングは実に興味深く、常に練習は最大90分で終了しますが、内容は、すべてが試合に直結したメニューであり、早いテンポで「短時間・高強度・高密度」のトレーニングが展開されていました。

また、ダグル・シグルドソン監督は、この大会で世界に先立つ新しい戦術をいくつか披露しました。選手もメディアへのインタビューの中で答えていましたが、これらの戦術は、「時に常識を超える」発想でした。

その固定概念にとらわれない柔軟な発想、行動力はとても魅力的でした。これらの戦術は、監督本人も公式に「マスタープラン」と名前をつけて発表しています。

チームミーティングも大変興味深く、ダグル・シグルドソン監督自らが映像や図を使い、選手にプレゼンテーションしていました。ミーティングに使用する対戦国の映像は、インターネット配信はもちろん、本人やスタッフが直接スカウティングに行くなどあらゆるネットワークを使用して収集、精査、分析していました。その情報量の膨大さとグローバルなネットワークの広さには驚かされました。

選手がミーティングルームに入室した時には、すでに全ての準備が完了しており、プレゼンテーションもじつに簡潔に対戦国の特徴等がまとめられていました。また、選手にかける言葉もつねにポジティブなもので、若い選手たちが自信を持って試合に臨めるように配慮されていたと感じます。

なお、ダグル・シグルドソン監督は、食事時には早く自身の食事を済ませ、まだ選手・スタッフが食事をとっている中、分析作業に戻っていました。24時間体制で大会に臨むその姿勢にコーチとしてあるべき姿を再認識させられました。

その中で、チームマネージャーのオリバー・ロギッシュ（元ドイツ代表・世界選手権優勝経験者）が果たす役割も大きいと感じました。国際経験豊かな彼は、チームの運営がスムーズに行くように各方面で活躍していました。ダグル・シグルドソン監督に変わってメディアのインタビューに受

け答えする場面も多く、また、各所への連絡手配や会計業務、その他もろもろ、監督・選手がゲームに専念しやすい環境を献身的に整えていました。

今大会では、世界でも屈指のレベルの高さを誇る「ドイツ・ブンデスリーガ」で普段プレーしている選手のたくましさ、強さを垣間見た気がします。選手16名（実際には、ケガにより大会期間中に追加招集された２名を含む18名）は１名の選手を除き(ポーランドリーグ所属)、ほぼ全員がブンデスリーガに所属しています。ブンデスリーガは、リーグ戦ではアリーナはつねに超満員で、目の肥えたファンの前で、高いパフォーマンスを発揮し続けなければいけません。その経験は何ものにも変えられない強みであり、彼らが選手、人間として成長する大きな一助になっていると感じます。

また、同時にドイツの選手層の厚さも実感しました。大会直前、さらに大会期間中に急遽追加招集された選手でさえも、その実力は他の選手と比較して遜色がなく、試合においても大活躍している姿を目の当たりにした時に改めて実感できました。

ドイツ国内の盛り上がりも相当でした。大会期間中、チームが勝ち上がるに伴い、決勝進出時と優勝時にメルケル首相からチームに激励の電話が入り、そこでも大きな盛り上がりを見せました。

大会優勝後、ポーランドからの帰国はチーム専用のチャーター機を利用しました。ドイツ（ベルリン）に到着次第、滑走路からそのままバスに乗り込み、パトカーの先導により祝勝会会場（フクセ・ベルリンのホーム会場）に直行し、イベントに参加しました。出迎えたファンの数は、会場に入れないファンが出る数（1万人超）で、テレビ中継もあり大盛況でした。

決勝戦で使用したボールは選手たちから贈られて、今、私の手元にあります。若い彼らが試合を通して自信をつけ、勢いを増し、ついにはヨーロッパチャンピオンの称号を得る過程を優勝の瞬間まで共有できたことは大変貴重な経験でした。

現在、ドイツ協会は、「2020年の東京オリンピックでの金メダル」を目標に掲げて活動しています。

今後もこのコーチ研修を通して、欧州のプロクラブならびに代表チームにおけるコーチングについて学ぶとともに、未来に向けて、日本球界のみならず、日本のスポーツ界全体の価値向上と発展に寄与すべく研鑽を積んでいきたいと思います。

ドイツ代表は今回のヨーロッパ選手権を迎えるにあたり、2016年9月以降、下記のスケジュールで強化を行いました。

11月2日～11月5日　ドイツ代表合宿（キール）
11月6日～8日　スーパーカップ（フレンスブルグ・ハンブルグ・キール）
対ブラジル　29対20
対セルビア　37対24
対スロベニア　31対28
12月28日～30日　ドイツ代表合宿（ベルリン）
1月2日～4日　ドイツ代表合宿（シュツットガルト）
1月5日　国際親善試合（シュツットガルト）対チュニジア　37対30
1月6日～8日　ドイツ代表合宿（ハーノーファー）
1月9日　国際親善試合（カッセル）対アイスランド　26対25
1月10日　国際親善試合（ハーノーファー）対アイスランド　24対27
1月12日～14日　ドイツ代表合宿（ベルリン）
1月14日　ポーランドへ移動

以下、ヨーロッパ選手権2016（ポーランド）
1月16日　ドイツ対スペイン　29対32
1月18日　ドイツ対スウェーデン　27対26
1月20日　ドイツ対スロベニア　25対21（予選リーグ2位）
1月22日　ドイツ対ハンガリー　29対19
1月24日　ドイツ対ロシア　30対29
1月27日　ドイツ対デンマーク　25対23（メインラウンド2位）
1月29日　ドイツ対ノルウェー　34対33（準決勝）
1月31日　ドイツ対スペイン　24対17（決勝）
2月1日　帰国～国内祝勝会

【ドイツ代表チーム構成】
・団長　1名
・監督　1名
・アシスタントコーチ2名
・ドクター1名
・トレーナー2名
・チームコーディネーター（用具係）1名
・チームマネージャー1名
・選手16名
他にもドイツ協会より広報担当者などデレゲーション以外のスタッフも多く参加。

報告 日本ハンドボール学会第4回大会

第4回大会実行委員長 **市村 志朗**（東京理科大学）

平成28年2月27日、28日と2日間の日程で、第4回目の学会大会が東京理科大学葛飾キャンパスにて開催されました。27日の初日は、学会会長の大西武三先生の挨拶から始まり、基調講演、一般発表へと続きました。基調講演では、筑波大学の會田宏先生が「スポーツ科学はコーチング実践に役立っているのか」という非常に興味深いテーマでお話しされました。研究者とコーチは、それぞれの立場でスポーツ科学の研究現場とコーチングの実践現場で生み出される事実に距離が生じていることを感じております。僭越ながら、スポーツ科学研究とコーチング実践の両方に携わっている私もこの距離感を感じております。この基調講演では、理論知や形式知を重要視する観察者側であるスポーツ科学と、身体知や実践知を重要視する実践者側であるコーチング実践の違いを説明され、これらスポーツ科学と、コーチング実践との間の距離の原因を詳細に解説されました。そして、本題でもある「スポーツ科学はコーチング実践に役立っているのか」というところでは、コーチング実践での「経験」→「内省（振り返り）」→「教訓」→「適用」といったコーチング実践のサイクルでの「内省（振り返り）」部分に、スポーツ科学の手法を加えることで上記のコーチング実践のサイクルを加速させることができることを解説されました。そして、スポーツ科学はコーチの省察に貢献する。省察するコーチはスポーツ科学を利用できると結論づけられました。

2日目のシンポジウムでは、「リオデジャネイロ五輪女子アジア予選　日本対韓国の検証―量的および質的な分析評価をもとに―」というテーマで行われました。パネリストとして、量的分析については実際にチームにも帯同された東海大学大学院生の嘉数陽介先生と私、質的分析については豊田合成ブルーファルコンコーチで男子日本代表チームコーチでもある吉村晃先生にお話しをして頂きました。量的分析、質的分析共に詳細な分析がなされ、リオデジャネイロ五輪女子アジア予選日本対韓国戦での日本チームの評価点や反省点または、本対戦からの将来の育成についても議論され、実に実りの多いシンポジウムであったと感じております。

一般発表演題は、2日間で5つのセッション、17演題と昨年度よりも多くなりました。内容につきましても、技術・戦術研究のみならず、ハンドボール医学や生理学、トレーニング効果についてなど、多岐にわたる研究内容でありました。この一般発表演題から、学会事務局企画の学会大会賞が選考され、学会大会賞は、位高駿夫先生（順天堂大学大学院）の「女子ハンドボール選手の遺伝的特徴について―ACTN3及びUCP2遺伝子多型の検討―」と、佐藤奏吉先生（筑波大学大学院）の「世界トップレベルの男子ハンドボール競技における6：0防御の戦術的特徴―インサイドディフェンダーとハーフディフェンダーの防御行動に着目して―」と、仙波慎平先生（筑波大学大学院）の「中学男子ハンドボール競技におけるボール規格の変更がゲーム様相に与える影響」が受賞されました。また、昨年末に刊行された「ハンドボールリサーチ第4巻」掲載論文の中から学会賞と学会奨励賞の表彰が、全発表終了後の総会において行われ、学会賞には、楠本繁生（大阪体育大学）・田代智紀（九州共立大学）・會田宏（筑波大学）各先生共著の「ハンドボールにおける卓越した指導者の指導力の熟達化に関する事例研究：高校・大学において全国大会で17回優勝している監督の語りを手がかりに」が、奨励賞には、中原麻衣子先生（福岡大学）の「ハンドボール競技におけるセンタープレーヤーの攻撃プレーの特徴：国内大学女子トップレベル選手を対象に」が選考されました。

日本ハンドボール学会は、昨年8月日本学術会議協力学術研究団体の指定を受けることができました。また、学会員数も173名となり、本学会大会でも教室が満席となる盛況な会となりました。大会実行委員として準備と運営にご尽力いただいた藤本元先生（筑波大学）、辻昇一先生（日本体育大学）、八尾泰寛先生（東京女子体育大学）、横手健太先生（高松大学）、学会事務局中心に準備と当日運営にご尽力いただいた筑波大学の會田宏先生、山田永子先生、筑波大学大学院生と東京理科大学学生の皆さん、座長を務めていただいた佐藤壮一郎先生（大同大学）、明石光史先生（大阪経済大学）、仲田好邦先生（名桜大学）、清水宣雄先生（国際武道大学）、花岡美智子先生（東海大学）、そして大会を盛り上げて下さった参加者の皆さんに、誌面をお借りし厚く感謝と御礼を申し上げます。

一般発表

佐藤奏吉（筑波大学大学院）・藤本　元（筑波大学）
世界トップレベルの男子ハンドボール競技における6：0防御の戦術的特徴―インサイドディフェンダーとハーフディフェンダーの防御行動に着目して―

永田　匠（岐阜大学大学院）・杉森弘幸（岐阜大学）・伊藤寿浩（福岡大学）・下川真良（朝日大学）
ハンドボール競技における移行局面での防御活動に関する考察―積極的防御活動に直目して―

加納明帆（筑波大学大学院）・會田　宏（筑波大学）
大学女子ハンドボール競技のセットディフェンスにおける有効な1対1防御プレー方法

桑江彩乃（琉球大学大学院）・田島聖子（西原町立坂田小学校）・三輪一義（琉球大学）
ハンドボールの防御活動に着目した授業実践の取り組み―ゲーム様相の発展過程から見られた学習効果―

津田龍佑（金沢医科大学）・川口　諒（広島大学大学院）・齊藤一彦（広島大学）
体力づくりを意図したハンドボールにおける授業効果の検証：中学1年生男子生徒を対象にして

仙波慎平（筑波大学大学院）・山田永子（筑波大学）
中学男子ハンドボール競技におけるボール規格の変更がゲーム様相に与える影響

田中　守・中原麻衣子・伊藤寿浩・森口哲史（福岡大学）・桑田祐成（福岡大学スポーツ科学部）・福田　元（福岡大学大学院）
ハンドボール選手の方向転換走能力とジグザグバウンディング能力との関連性

岡部正明（筑波大学大学院）・鍋倉賢治（筑波大学）
ハンドボール競技者におけるサーキット運動が方向転換走能力に及ぼす影響

横山克人・栗山雅倫（東海大学）
ハンドボール競技におけるゲーム分析：女子世界選手権・女子ジュニア世界選手権・女子ユース世界選手権に着目して

橋本真一（筑波大学大学院）・會田　宏（筑波大学）
2014年男子ヨーロッパ選手権で見られた三次速攻の特徴

山本沙貴・大石健二・辻　昇一（日本体育大学）
全日本ビーチハンドボール選手権大会女子優勝チームを対象とした前半（1stperiod）・後半（2ndperiod）におけるシュート種類の特徴

清水宣雄（国際武道大学）・東　俊介（大崎電気）
ハンドボールにおける基本プレイ・アルゴリズム構築に関する研究―1対1突破局面におけるステップスキル体系化の試み―

石井優衣（順天堂大学スポーツ健康科学部）・鹿倉二郎・門屋悠香・町田修一（順天堂大学）
女子大学生ハンドボール選手における下肢傷害と大腿部筋力との関連性

鈴木健一・川谷　響・尾崎隼朗・内藤久士・町田修一（順天堂大学）
大学男子ハンドボール選手における無酸素パワーと間欠的運動能力の競技レベル別の検討

位高駿夫（順天堂大学大学院）・笠原朋香・花岡美智子・栗山雅倫（東海大学）・町田修一（順天堂大学）
女子ハンドボール選手の遺伝的特徴について―ACTN3及びUCP2遺伝子多型の検討―

井本光次郎・佐久間克彦（熊本赤十字病院）・貝沼圭吾（国立病院機構三重病院）・坂本静男（早稲田大学）
過去における日本代表派遣前外傷メディカルチェックから見えてくるもの

北岡克彦（光仁会木島病院整形外科）
膝前十字靭帯損傷時には外側半月板断裂の合併に注意すべし！―前十字靭帯再建術の前に半月板の縫合をすべきかも―

スコアルーム

第39回全国高等学校ハンドボール選抜大会

開催期日：2016年3月24日（木）～29日（火）
会　　場：兵庫県・グリーンアリーナ神戸ほか

【男　子】

▼1回戦

興　　南（沖縄）38（18－8、20－9）17　聖和学園（宮城）
瓊　　浦（長崎）23（12－11、11－11）22　総　　社（岡山）
小松工業（石川）41（18－16、23－20）36　駿台甲府（山梨）
國學院大學栃木（栃木）33（15－16、18－14）30　岩　　国（山口）
明　　星（東京）39（19－16、20－14）30　清水桜が丘（静岡）
洛　　北（京都）33（18－16、15－13）29　高岡向陵（富山）
富　　岡（群馬）32（14－13、18－14）27　四日市工業（三重）
帝京安積（福島）25（10－10、15－14）24　佐賀清和（佐賀）
愛　　知（愛知）25（10－9、15－11）20　九州学院（熊本）

▼2回戦

藤代紫水（茨城）27（13－13、14－10）23　興　　南（沖縄）
横浜創学館（神奈川）45（23－10、22－14）24　育　　英（開催地）
大阪体育大学浪商（大阪）28（14－11、14－16）27　瓊　　浦（長崎）
春日丘（愛知）30（13－12、17－14）26　小松工業（石川）
大　　分（大分）42（18－13、24－13）26　國學院大學栃木（栃木）
昭和学院（千葉）28（13－9、15－10）19　松山工業（愛媛）
不来方（岩手）29（10－11、13－12）26　紀北農芸（和歌山）
（3－2 延長 3－1）
北　　陸（福井）35（20－14、15－12）26　明　　星（東京）
浦和学院（埼玉）30（16－12、14－14）26　洛　　北（京都）
博　　多（福岡）29（12－14、17－13）27　岐阜商業（岐阜）
岩国工業（山口）35（16－11、19－15）26　神戸国際大学附属（兵庫）
花巻北（岩手）33（11－10、22－9）19　富　　岡（群馬）
香川中央（香川）37（16－12、21－7）19　帝京安積（福島）
市　　川（千葉）37（24－7、13－9）16　函館大学付属有斗（北海道）
近江兄弟社（滋賀）26（8－14、18－9）23　守　　谷（茨城）
法政大学第二（神奈川）32（15－10、17－13）23　愛　　知（愛知）

▼3回戦

藤代紫水 32（12－7、20－14）21 横浜創学館
大阪体育大学浪商 32（20－8、12－17）25 春日丘
大分 30（18－10、12－13）23 昭和学院
北陸 28（13－15、15－9）24 不来方
浦和学院 36（18－15、18－18）33 博多
岩国工業 36（21－7、15－10）17 花巻北
香川中央 32（16－15、16－10）25 市川
法政大学第二 36（18－7、18－7）14 近江兄弟社

▼準々決勝

大阪体育大学浪商 32（17－9、15－18）27 藤代紫水
大分 31（14－13、17－16）29 北陸
岩国工業 24（13－10、11－13）23 浦和学院
法政大学第二 29（18－9、11－15）24 香川中央

▼準決勝

大分 29（14－17、15－11）28 大阪体育大学浪商
岩国工業 37（19－16、18－13）29 法政大学第二

▼決　勝

岩国工業 35（19－9、16－11）20 大分

【女　子】

▼1回戦

不来方（岩手）28（16－9、12－12）21　玉野光南（岡山）
浦　　添（沖縄）31（20－4、11－11）15　武庫川女子大学附属（開催地）
高岡向陵（富山）25（9－11、12－10）23　昭和学院（千葉）
（2－1 延長 2－1）
白梅学園（東京）28（26－5、2－11）16　大曲農業（秋田）
富岡東（群馬）30（10－14、20－15）29　瓊　　浦（長崎）
大　　分（大分）26（12－5、14－15）20　聖和学園（宮城）
鹿児島南（鹿児島）31（14－7、17－8）15　八千代（千葉）
高　　津（神奈川）22（11－5、11－4）9　今治東中等教育学校（愛媛）
佼成学園女子（東京）39（23－7、16－10）17　松　　橋（熊本）

▼2回戦

高松商業（香川）26（8－12、18－10）22　不来方（岩手）
四天王寺（大阪）27（14－7、13－4）11　日　　川（山梨）
浦　　添（沖縄）32（20－5、12－12）17　北海道函館工業（北海道）
名古屋経済大学市邨（愛知）18（6－6、12－7）13　高岡向陵（富山）
明光学園（福岡）24（11－11、13－12）23　白梅学園（東京）
星　　城（愛知）33（17－13、16－13）26　福井商業（福井）
神戸星城（兵庫）20（10－8、10－8）16　飛騨高山（岐阜）
華　　陵（山口）25（12－8、13－9）17　富岡東（群馬）
水海道第二（茨城）27（15－8、12－12）20　大　　分（大分）
四日市商業（三重）36（17－9、19－8）17　和歌山商業（和歌山）
大阪商業大学堺（大阪）20（12－7、8－7）14　香川中央（香川）
鹿児島南（鹿児島）27（14－13、13－11）24　氷　　見（富山）
高　　津（神奈川）22（9－7、13－7）14　郡山女子大学附属（福島）
夙川学院（兵庫）25（9－10、16－10）20　愛知商業（愛知）
高　　水（山口）43（20－11、23－9）20　長　　良（岐阜）
洛　　北（京都）23（10－11、13－8）19　佼成学園女子（東京）

▼3回戦

四天王寺 17（6－11、11－5）16 高松商業
名古屋経済大学市邨 26（15－8、11－13）21 浦添
明光学園 21（12－10、9－8）18 星城
華陵 28（15－9、13－12）21 神戸星城
水海道第二 25（12－7、13－8）15 四日市商業
鹿児島南 35（16－10、19－11）21 大阪商業大学堺
高津 28（16－6、12－8）14 夙川学院
高水 28（17－15、11－12）27 洛北

▼準々決勝

名古屋経済大学市邨 23（14－12、9－10）22 四天王寺
華陵 23（10－5、13－15）20 明光学園
水海道第二 29（17－9、12－11）20 鹿児島南
高水 27（17－13、10－12）25 高津

▼準決勝

名古屋経済大学市邨 26（11－7、15－10）17 華陵
水海道第二 34（18－14、16－11）25 高水

▼決　勝

水海道第二 21（7－8、14－8）16 名古屋経済大学市邨

▶日本ハンドボール協会機関誌「ハンドボール」回覧簿◀

全国のクラブ・部活動でハンドボールをプレーしている皆さん！　日本ハンドボール協会機関誌「ハンドボール」（本誌）をぜひ仲間と共に読んでみてください。代表監督・選手のコメント、各種大会の結果報告、海外情報など、きっと皆さんのハンドボールライフに役に立つ情報が掲載されているはずです！

閲覧者	1	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24	25	26

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」3月入会・継続会員

【北海道】小島収治【山形】五島訓二【福島】今野雅益【茨城】稲吉　繁、田中　将、田中汀子【栃木】加藤明夫【埼玉】高田　誠【千葉】金牧　稔、勝俣裕二、吉田　修【東京】森松誠二、田村公孝、西岡雅樹、山崎貴士、角屋　圭子、徳高康弘、荻原信裕【神奈川】植村　繁、金子龍二【福井】青柳里沙【静岡】坂東廣一【愛知】筒井理絵、登丸亨介、山本淳子、齊藤慎太郎、西村亮治【兵庫】丸茂康子【広島】永澤貴昭、田中友紀、西山絵理【高知】有光正憲【長崎】藤山聖子

【5月・6月の行事予定】

【会議】……………………………………………………………

5月14日(土)　常務理事会
6月11日(土)　第1回理事会
6月26日(日)　第1回評議員会

【大会】……………………………………………………………

6月25日(土)
2016日韓定期戦（男女）……………　（韓国・ソウル）
6月27日(月)～7月3日(日)
第23回世界学生選手権…………　（スペイン・マラガ）

HAND BALL CONTENTS May.

(公財)日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』　第五五九号

平成二十八年四月二十六日印刷
平成二十八年五月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話　代表〇三－三四八一－二三六一
振替　〇〇一二〇－七－一〇二九三

編集兼発行人　川上憲太

定価　年間三三〇〇円